

昭和 40 年度

地力保全基本調査成績

[網走湖畔地域 女満別町]

北海道立中央農業試験場



序

現状における土地生産力は土壤の諸種の阻害要因によつて充分にその地力を發揮できない場合が少なくないのみならず一方では剥脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するための昭和34年より農林省農政局の助成をえて基本的土壤調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和40年度に行なつた15市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し當農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和41年3月

北海道立中央農業試験場
三島京治

調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ10.0ha以上の集団になつてゐる農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに當つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壌断面調査および現地での當農状況は地力保全対策資料第6号（昭和36年9月、農林省振興局農産課）によつた。
2. 土壤統および区の設定並びに土壤生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号（昭和40年3月、農林省農政局農産課）及び水田土壤統設定第1次案（昭和38年12月、農技研化学部土壌第3科）によつた。

土壤統および土壤区の設定に當つては、北海道農業試験場農芸化学部土壤第1研究室の土性図を参照した。

調査職員氏名

化学部	部長	長谷部	俊雄
" 土壌改良科	科長	後藤	計二
" "	第1係長	小林	莊司
" "	研究職員	高尾	欽彌
" "	"	菊地	晃二
" "	"	水元	秀彰

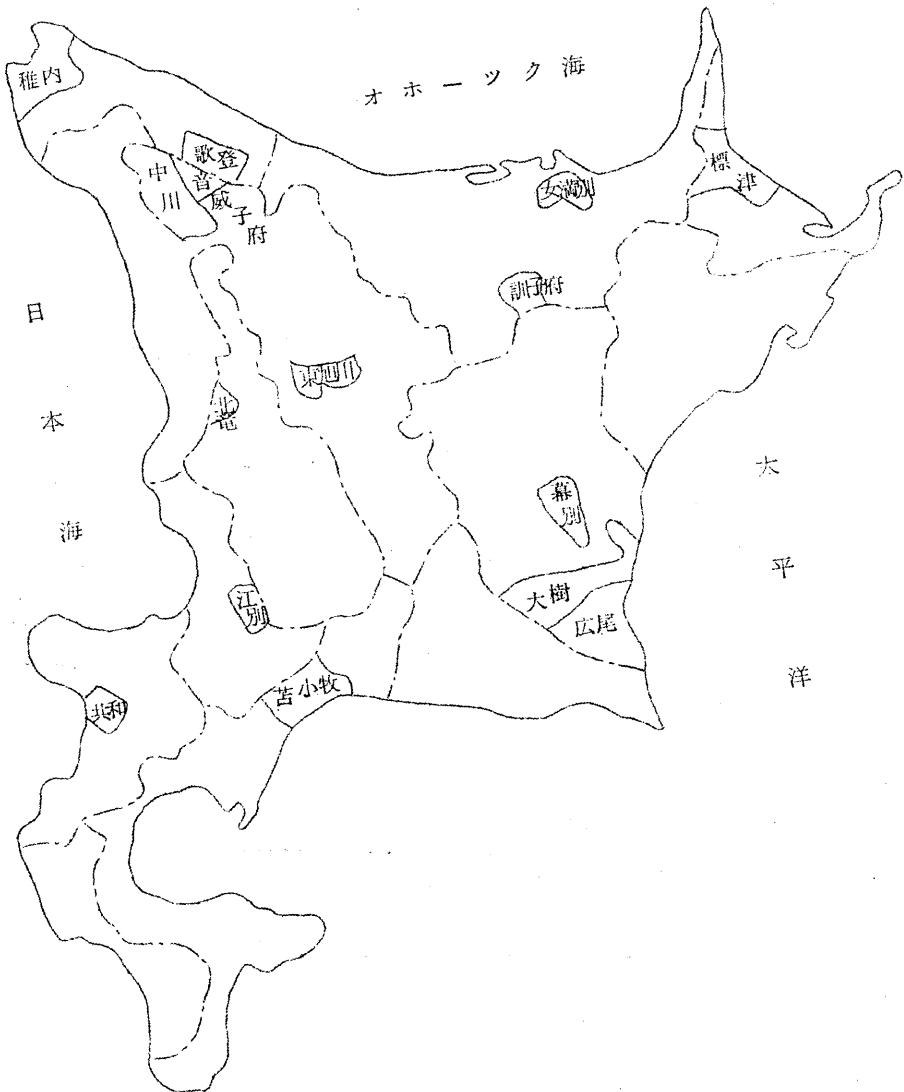
主に土壤分析を担当した職員

化学部	土壌改良科	研究職員	谷口	未吉
"	"	"	小野	清子

1. 調査地域一覧

調査地域名	該当	農地面積 (調査対象面積)		既調査面積		本年度調査面積	
		水田	畠	水田	畠	水田	畠
共 和	岩内郡共和村	ha 2,372.0	ha 3,176.0	ha 2,372.0	ha 2,000.0	ha 0	ha 1,176.0
石狩川下流	江別市	3,456.0	4,767.0	0	3,000.0	3,456.0	1,767.0
空知郡北部	雨竜郡北竜町	1,891.0	897.0	1,800.0	0	91.0	897.0
上川中央	旭川市(東旭川町)	4,524.0	1,462.0	4,000.0	0	524.0	1,462.0
上川北部	中川郡音威子府村	64.0	1,590.0	0	1,000.0	64.0	590.0
上川北部	中川郡中川町	81.0	3,883.0	0	1,000.0	81.0	2,883.0
稚 内	稚内市	0	2,736.0	0	1,000.0	0	1,736.0
頓 別	枝幸郡歌登町	0	2,987.0	0	1,000.0	0	1,987.0
網走湖畔	網走郡女満別町	923.7	6,420.0	0	4,200.0	923.7	2,220.0
北 見	常呂郡訓子府町	550.0	5,141.0	0	4,000.0	550.0	1,141.0
標 津	標津郡標津町	0	2,740.0	0	1,000.0	0	1,740.0
日高山脈東山麓	広尾郡大樹町	0	10,000.0	0	5,000.0	0	5,000.0
日高山脈東山麓	広尾郡広尾町	0	4,850.0	0	2,000.0	0	2,850.0
十勝中部	中川郡幕別町	328.0	14,900.0	0	5,000.0	328.0	9,900.0
穂前山南山麓	苦小牧市	435	2,796.7	0	0	435	2,796.7
合計		14,233.2	68,345.7	8,172.0	30,200.0	6,061.2	38,145.7

調査地区位置図



網走湖畔地域女満別地区

1 地区の概況

1) 位置及び調査面積

(1) 位置

網走支庁管内、網走郡女満別町

(2) 調査面積

都市町村名	農地総面積 (ha)			調査対象面積 (ha)			水田	
	水田	普通畠	樹園地	計	水田	普通畠	樹園地	計
網走郡女満別町	923.7	6420	—	7,343.7	923.7	6420	—	7,343.7
								0

過年度調査面積 (ha)			本年度調査面積 (ha)			次年度以降調査面積 (ha)				
普通畠	樹園地	計	水田	普通畠	樹園地	計	水田	普通畠	樹園地	計
4200	—	4200	923.7	2220	—	3,123.7	0	0	0	0

2) 気象

本町は北海道の東部、オホーツク海に近いため、春から夏にかけて所謂オホーツク海高気圧の影響を受ける年がありかかる年は連日冷涼の日が続き冷害をうける。しかし、その程度は北部の紋別、雄武よりは少ないが、一般に気候は冷涼である。また降雨量は少なく、春季風蝕をうけやすい。網走測候所の気象表をみると次の如くである。

(30年の平均)

項目		月別	4	5	6	7	8	9	10	11
(C)	気温	平均	3.6	8.7	12.4	17.0	19.5	15.8	10.1	3.1
	最高平均		8.2	13.5	16.7	20.9	23.5	20.1	14.8	6.9
	最低平均		-0.2	4.6	8.8	13.8	16.3	12.4	6.3	-0.2
降水量 (mm)	平均	46.8	70.5	64.6	89.3	98.8	120.6	81.4	67.4	
湿度 (%)		73	77	84	88	87	83	77	72	
風速 (m/s)		4.6	4.3	3.1	2.7	2.9	3.7	4.1	4.6	
日照時数 (時)		196.7	191.1	198.6	191.7	199.7	198.6	179.2	133.9	

晩霜 5月15日、初霜 10月17日

3) 土地条件

(1) 地形

本調査地区の略々中央部を網走川が流れて網走湖に注ぎ、その両岸には低平地が分布している。この低平地の西側はやや解析された標高30m～200mの緩傾斜～傾斜地が多く、低平地に接するところは一部にやや平坦な台地が形成されている。またそれの東側には標高30m～100mの略々平坦もしくは波状緩斜を呈する台地が広がり、本町の主要な畑作地帯となつていて。この台地は隣接する市町村である美幌町、網走市、東藻琴村に連続して広がつていて。

(2) 地質

本調査地区の略々中央部を流れる網走川の流域はその大部分はヨシ、スゲを主材とする低位泥炭地からなり、網走川とその旧河川との間には網走川の氾濫による河成堆積物が小面積分布する。

この低平地の西側は安山岩質崩積土が多く分布し、開析谷の周辺に一部分凝灰質、軽石風化物等が存在し、また沖積面に接するところには洪積堆積物からなる小規模な段丘地が形成されている。

その東側に分布する広大な台地の基盤は屈斜湖カルデラ形成期に放出された軽石流堆積物からなっているが、網走湖並びに沖積面に接するところにはこの軽石流堆積物の上に更に軽石風化物が二次的に堆積している。またこの台地の一部には凝灰質に由来する下層やや堅密なところが存在し、台地を解釈している小河川の流域には腐植を多量に集積した水積物及び低位泥炭が小規模に分布する。

尚、河成沖積地を除いて、何れも極く薄層の火山灰が被覆している。

(3) 侵蝕状況

本調査地区の西側に分布する緩傾斜～傾斜地では水蝕の発生が見られ傾斜の急なところは水蝕の被害が甚しい。この西側の軽石流堆積物を母材とする地帯は、土壤が粗しようでかつ排水良好なため、晩春から初夏にかけての乾燥期に襲来する季節風によつて土壤が飛散し、作物の播種期、発芽期にしばしば甚しい被害を受ける。また緩傾斜～傾斜地では耐侵蝕性に乏しい土壤のため水蝕も受ける。

(4) 交通状況

本調査地区の略々中央を、網走市、美幌町に通ずる一級国道が走つており、同様に網走市、卯原内を経て常呂に至る道道、更に地区南東部を美幌から東藻琴、小清水方面に至る道道が走つてゐる。地区内の号線道路もよく発達してゐて、交通はおおむね良好である。

4) 土地利用及び營農状況

a) 経営面積(ha)

総面積	田	普通畠	樹園地	その他
6,532.5	965.8	5,566.7	—	4.4

b) 作付面積(ha)

作物	菜豆	てんさい	小麦	大豆	えん麦	馬鈴薯	牧草
面積	2,175	641	608	428	394	415	660

c) 家畜の種類及び頭数

	馬	乳牛		豚	綿羊	鶏
		成牛	育成牛			
飼育戸数	804	192		101	258	426
飼育頭数	1,444	848		430	444	1,8673
1戸当平均 飼育頭数						

d) 耕種肥培慣行及び収量(Kg/a)

作物	主な品種	元肥			追肥			収量	
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	N	P ₂ O ₅	K ₂ O	
小麦	北栄	0.4	1.0	1.0					30
菜豆	手亡	0.3	1.0	0.6					18
てんさい	ポリラーべ	農協配合	1.2	-	240				200
馬鈴薯		0.5	1.2	1.1					200

本町の経営状況をみると、農家所有面積の耕地化率は極めて高い。

栽培する作物の種類は多く、蕎麥類を主体に麦類、馬鈴薯、てんさい、飼料作物と多方面にわたっている。尙水稲約900ha作付されている。農家の収入は大部分が穀物経営に頼つている現状で、豊作年と凶作年の収入の差が極端である。かかる点の改善策として農業構造改善事業を計画し寒冷地畑作に対処して、原料乳、ビート、鶏卵を基幹として実施する計画を検討中である。

2 土壌類型区分及び説明

1) 土壌統一観及び土壌区一覧

(1) 土壌統一観

水田

土壌 統名	色層序	腐植層序	礫層、砂礫 層、礫を混 在する砂層	酸化 沈積物	表土の 土性	泥炭	黒泥	グライ	母材 堆積様式
住吉	G/Y	表層腐植層なし	なし	あり	粘質	—	—	80cm 以下	非固結水成岩 水積
本郷	G/Y	"	"	"	"	50cm 以下	—	—	非固結水成岩/ ヨシ、スゲ
瑞治	G/Y	表層多腐植層	"	"	"	20cm 以下	—	—	水積/集積 ヨシ、スゲ 集積

畑

土壌 統名	色層序	腐植層序	礫層、砂礫 層、礫を混 在する砂層	酸化 沈積物	土性		母材		堆積様式
					表土	次層	表土	次層	
豊里	YR/YR	表層腐植層	なし	なし	粘質	粘質	非固結水成岩(固結火成岩混)	洪積	
朝日	" / "	表層多腐植層	"	あり	"	強粘質	非固結水成岩	洪積	
大成	" / "	"	"	"	"	粘質	非固結水成岩(凝灰質)	洪積	
高間	" / "	表層腐植層	"	なし	"	"	非固結水成岩(凝灰質(浮石))	洪積	
昭和	" / "	"	"	"	"	壤質	非固結火成岩(軽石流)	洪積	
中央	" / "	表層腐植層	"	"	"	粘質	非固結火成岩(軽石流)	洪積	
巴沢	" / "	"	"	"	"	"	非固結水成岩	崩積	
豊里西	" / "	表層多腐植層	"	"	"	"	固結大成岩	崩積	
住吉西	YR/Y	表層腐植層なし	"	あり	"	壤質	非固結水成岩	水積	
女満別川	Y/Y	表層多腐植層	"	"	強粘質	粘質	非固結水成岩	水積	

(2) 土壤区一覧

水田

土壤区名	簡略分級式	耕地面積(ka)	備考
住吉—住吉	IIln	50.7	
本郷—本郷	IIlrfn	82	
瑞治-1	IIItrfn	540	
" - 2	IIItrf	136	
" - 2	IIItrfa	115	

畑

土壤区名	簡略分級式	面積(ka)	備考
豊里-1	IIwfs	194	
" - 2	IIdws	168	
朝日—朝日	IIIdtIIwnie	210	
大成—大成	IIIwIItdni	490	
高間—高間	IIIseIIt	121	
昭和-1	IIIeIIt(w)	980	
" - 2	IIIeIItfn	310	
" - 3	IIIeIIt(w)fn	620	
" - 4	IIIeIIt(w)fn	1,446	
中央-1	IItn	460	
" - 2	IIte	240	
" - 3	IIt(w)ne	150	
" - 4	IItfnse	177	
巴沢-1	IIIdseIIti	180	
" - 2	IIts	60	
豊里西—豊里西	IIIwIItdgpe	261	
住吉西—住吉西	IIIwIItp	53	
女満別川-1	IIIwIItf	90	
" - 2	IVwIItfn	210	

2) 土壤統別説明

水田

住吉 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ1.5~1.7cmで腐植含量2~3%、土性はc Lが主である。色は2.5 G-Yで彩度1、明度4。細粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。ち密度は1.2前後で疎。PH(H₂O)は5.2前後。下層との境界は概ね判然としている。

第2層は厚さ13cm内外で腐植含量は2%以下、土性はCLが主である。色は7.5Yで彩度1、明度5。細塊状構造で発達程度は弱度で、糸根状、膜状の酸化沈積物を含む。ち密度は1.7前後で疎。PH(H₂O)5.9前後。下層へはおおむね漸変する。

第3層は厚さ5cm内外で腐植を欠き土性はCLが主である。色は2.5Yで彩度2、明度6である。均質連結状で細孔を含み、糸根状、膜状の酸化沈積物に富む。ち密度は1.2内外で疎。PH(H₂O)は6.0前後。下層へは漸変する。

第4層は地表下おおむね80cm以下で腐植を欠き、土性はCが主である。色は2.5GYで彩度1明度5のものが多い。均質連結状で細孔を僅かに含み、グライを呈する。地表下85cm内外で湧水する。

代表的断面形態

(所在地)網走郡女満別町字住吉 試坑A211

第1層	0~17cm	腐植を含む灰色(2.5GY4/1)のCL、発達弱度の細粒状構造、ち密度1.2で疎、PH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り湿、境界平坦明瞭
第2層	17~30	腐植を欠く灰色(7.5Y5/1)のCL、発達弱度の細塊状構造、ち密度1.7で疎、PH(H ₂ O)5.9、糸根状の鉄錆斑を含む、調査時の湿り湿、境界漸変
第3層	30~80	腐植を欠く灰褐色(2.5Y6/2)のCL、均質連結状で細孔を含む、ち密度1.2で疎、PH(H ₂ O)6.0、糸根状、斑状の鉄錆斑に富む、調査時の湿り湿、境界波状漸変
第4層	80以下	腐植を欠く灰色(2.5GY5/1)のC、均質連結状、ち密度1.2で疎、グライを呈し、調査時の湿り潤、地表下85cmから湧水

代表的断面の分析成績

層位	採取部 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %	PH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	KCl
1	0~17	4.1	0.9	38.6	39.2	21.3	CL	1.26	0.15	8	2.2	5.2	4.0
2	17~30	4.4	1.0	34.9	41.2	22.9	CL	—	—	—	—	5.9	4.8
3	30~80	5.2	1.5	38.3	38.1	22.1	CL	—	—	—	—	6.0	4.7

層位	置換酸度Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 CaO MgO K ₂ O			石灰飽和度 %	30°C NH ₄ N發生量 mg/100g		有効態 N P ₂ O ₅	磷吸収係數	遊離酸化鐵 %	
			CaO	MgO	K ₂ O		乾上	湿上				
1	4.50	23.7	11.3	4.8	0.9	47.7	6.81	2.34	6.8	2.3	613	0.75
2	0.50	25.9	15.6	5.7	1.3	60.2	4.05	1.26	4.1	4.6	962	1.23
3	0.75	25.2	14.2	6.7	1.2	56.4	—	—	3.6	848	1.34	

A-2 他の土壤統との関係

本統に近接または類似する統としては瑞治統、本郷統があるが、両統とも下層に泥炭層が出現するので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積

B 地形

網走川流域の低平地

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見舞われ、冷害をしばしば受ける。
降水量は年間800mm前後で少く、春季強風が強い。

D 植生及び利用状況

水稻単作が行なわれている。

E 農業上の留意事項

腐植含量が少ないので堆肥、素わら等有機物の施用が必要である。

F 分布

女満別町字住吉の一部

調査及び記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

昭和41年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
住吉一住吉	IIln

② 土壤区別説明

住吉一住吉

示性分級式(水田)

土表有表耕	～	灌	～	漬	～	土	～	自	～	養	～	障	～	災							
壞	効	土	表	土	下	透	易	遊	格	透	保	固	土	置	有	酸	有	物	增	地	
生	上	土	表	土	下	化	土	離	離	然	層	分	換	“	“	“	“	害	理	冠	す
產	土	土	土	土	土	解	土	接	ラ	地	分	換	“	“	“	“	物	物	水	べ	り
力	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可	層	粘	透	化	下	50	有	イ	50	水	水	潤	肥	定	塩	石	苔	加	露	質	の
能	の	土	透	還	物	の	有	イ	の	水	水	潤	肥	塩	塩	塩	苔	露	害	障	害
性	厚	土	透	還	高	物	有	イ	の	基	灰	土	里	酸	要	灰	土	里	酸	要	危
等	深	土	透	還	高	物	含	性	の	灰	土	里	酸	要	灰	土	里	酸	要	害	險
級	さ	難	性	性	水	性	元	性	性	乾	性	度	沃	力	力	態	豐	量	量	素	度
さ	き	性	性	性	水	性	元	性	性	乾	性	度	沃	力	力	態	豐	量	量	素	度
き	量	易	性	性	水	性	元	性	性	乾	性	度	沃	力	力	態	豐	量	量	素	度
量	t	d	g	p	1	r	w	f	n	i	a										

③ **III** I I I I 2 2 1 II 2 2 I 1 3 1 — — — I 1 1 2 II 1 1 1 2 3 — 1 1 I 1 1 I 1 1
団單
地独

④ **III** I I I I 2 2 1 — — — III 2 2 3 I 1 1 2 II 1 1 1 2 3 — 1 2 I 1 1 I 1 1

簡略分級式 IIln

⑤ **III** w II Pn

A 土壤区の特徴

この土壤区は住吉統に属する。表土の厚さは1.5~1.7cmで中庸、有効土層は1m以上で深い。表土は礫なく細粒質で粘着性が強く、湛水透水性中庸である。グライ層は7.0~8.0cm以下にある。

保肥力大、磷酸固定力小、土層の塩基状態は中庸もしくは良好で、自然肥沃度は良好である。有効態磷酸、窒素はやや少ないが、他の養分は多く存在する。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

水稻が単作されている。

C 地力保全上の問題点

堆肥、素わらの施用が必要であり、素わらは 300~400Kg/10a 程度とし、秋撒布か秋鋤込みとする。

D 分 布

女満別町字住吉の一部

記載責任者 高尾鉄彌（北海道立中農業試験場）

昭和41年3月31日

本郷統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ 14cm 内外で腐植含量 2~3%、土性は C L が主である。色は 2.5 Gy で彩度 1、明度 6 のものが多い。細粒状構造で発達程度は弱度である。ち密度は 1.4 前後で疎。PH (H₂O) 5.0 前後。糸根状、斑状の鉄の酸化沈積物に富む。下層との境界はおおむね判然としている。

第2層は厚さ 10~20cm で腐植含量 2% 以下、土性は C のものが多い。色は 5y~7.5y で彩度 1~2、明度 4~7、均質連結状で小孔を含む。糸根状、斑状の鉄の酸化沈積物を含む。ち密度 1.8 前後で疎~中。PH (H₂O) 4.7 前後。下層へはおおむね漸変する。

第3層は厚さ 2.5cm 内外で腐植を欠き、土性は C のものが多い。色は 5y~7.5y で彩度 1~2、明度 6~7、均質連結状で細孔を含む。ち密度 1.3~1.5 で疎。PH (H₂O) 4.8 前後。下層との境界は波状明瞭である。

第4層は地表下おおむね 50cm 以下で、ヨシを主材とする分解やや不良な低位泥炭で、色は 7.5y で彩度 2、明度 3 のものが多い。

代 表 的 断 面 形 態

所在地 網走郡女満別町字本郷 試坑版 218

第1層	0~14cm	腐植を含む灰色 (2.5 Gy 6/1) の SiCl、発達弱度の細粒状構造、糸根状、斑状の鉄の酸化沈積物に富む。ち密 1.4 で疎。PH (H ₂ O) 5.0、調査時の湿り湿、層界明瞭
第2層	14~28	腐植を欠く灰褐色 (5y 7/2) の LiC、均質連結状で小孔を含む。糸根状、斑状の鉄の酸化沈積物に富む。ち密度 1.8 で疎。PH (H ₂ O) 4.7、調査時の湿り湿、層界漸度
第3層	28~40	腐植を欠く灰褐色 (5y 7/1) の LiC、均質連結状で細孔を含む。糸根状、斑状の鉄の酸化沈積物に富む。ち密度 1.3 で疎。PH (H ₂ O) 4.8。調査時の湿り湿、層界漸度
第4層	40~50	腐植を欠く灰色 (7.5y 6/2) の C (農学会法触感)、均質連結状。ち密度 1.5 で疎。調査時の湿り湿。層界波状明瞭。
第5層	50 以下	灰色 (7.5y 3/2) を呈する低位泥炭。分解不良

代表的断面の分析成績

層位	採取部 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	全炭素 素%	全窒素 素%	炭素率	腐植 % H ₂ O	PH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						KCl	
1	0~14	4.9	1.2	24.0	50.2	24.6	SicL	1.45	0.15	10	2.5	5.0	3.9
2	14~28	5.3	1.0	29.5	43.0	26.5	LiC	—	—	—	—	4.7	3.7
3	28~40	5.2	0.2	31.6	43.7	24.5	LiC	—	—	—	—	4.8	3.7

層位	置換酸度Y ₁	塩基置換容量 ml/100g	置換性塩基ml/100g			石灰飽和度%	30°C NH ₄ N発生量mg/100g		有効態 mg/100g		phosphate absorption coefficient	游離酸化鐵%
			CaO	MgO	K ₂ O		乾土	湿土	N	R ₂ Q		
1	8.50	25.4	10.4	5.4	1.6	41.0	4.69	3.06	4.69	1.3	9.97	0.93
2	16.00	26.9	10.5	5.4	1.5	38.8	4.60	0.63	4.60	2.7	1.044	1.48
3	19.50	28.6	10.5	5.4	1.4	36.6	—	—	—	0.6	1.027	1.16

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては瑞治統があるが堆積様式が異なるので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩／ヨシ

A-4 堆積様式 水積／集積

B 地形

網走川流域の低平地

C 気候

気候一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見まわれ、冷害をしばしば受ける。

降水量は年間800mm前後で少なく、春季強風が吹く。

D 植生及び利用状況

水稻単作が行なわれている。

E 農業上の留意事項

作土層が浅いので深耕することが望ましい。

F 分布

女満別町字本郷、住吉の一部

調査及び記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

昭和41年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
本郷 - 本郷	II tlr fn

② 土壤区別説明

本郷 - 本郷

示性分級式(水田)

土壤生産力可能等級	表有表耕効土の層の厚さ	耕土の土の風化度	土の粘土の含有量	水の浸透性	水の透水性	保固土の性状	固土の層分換	固土の性態	養基の性状	養基の量	微酸性	有機物質	有害物質	増地害の危険度	火災度
	t d g P	1	w	f	n		" "	" "	石炭酸素酸素	珪灰土	害の原因	冠水の度	の危険度	度	
(稻)	II	III I I II 2 2 1	I 1 2	II 1 2 2	- - -	II 1 2 2	II 1 1 1 3 3	- 1 2	I 1 1 I 1 1						
						団単									
(畑)	III	III I I II 2 2 1	- - -	- - -	III III 2 3 3	II 1 2 2	III 1 1 1 3	- - -	1 3 I 1 1 I 1 1						
						地独									
	簡略分級式 II + I r f n														

(稻) II III I I II 2 2 1 I 1 2 II 1 2 2 - - - II 1 2 2 II 1 1 1 3 3 - 1 2 I 1 1 I 1 1
 (畑) III III I I II 2 2 1 - - - III III 2 3 3 II 1 2 2 III 1 1 1 3 - - - 1 3 I 1 1 I 1 1

A 土壤区の特徴

この土壤区は本郷統に属する。作土の厚さは14cm内外で浅く、有効土層は1m以上で深い。作土は疊なく細粒質で粘着性やや強く、耕起、碎土がやや困難である。湛水透水性は中庸で、地表下50cm前後から低位泥炭が出現する。保肥力大、磷酸固定力小で土層の塩基状態は中位であり、自然肥沃度はやや良好である。作土は有効態磷酸、窒素が少ないが他の有効態成分は中庸である。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

水稻单作が行なわれている。

C 地力保全上の問題点

一般に作土層が浅いので深耕することが望ましい。腐植含量少なく、有効態窒素が少ないので堆肥の施用又は素わら施用等有機物の補給が必要である。素わら施用の場合は秋撒布又は秋鋤き込みが望ましく、施用量は10a当たり300~400Kg以下とすることが望ましい。

D 分 布

女満別町字本郷、住吉の一部

記載責任者 高尾欽彌(北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月31日

瑞 治 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12~15cmで腐植含量8~15%、土性はCL~Cである。色は2.5y~7.5yで彩度1~2、明度2~4、細粒状構造で発達程度は弱度のものが多い。糸根状、膜状の鉄の酸化沈積物を含む場合が多い。ち密度1.0以下で頗る疎、PH(H₂O) 5.1~5.3。下層との境界はおおむね判然としている。

第2層は厚さ7~12cmで腐植含量2~16%、土性はCL~Cである。色は5y~7.5yで彩度

1～2、明度1～4、均質連結状である。膜状の鉄の酸化沈積物を含む場合が多い。ち密度1.0～1.8で疎。PH(H₂O)5.1～5.5。下層との境界はおおむね判然としている。第3層は3.0～4.0cmでヨシを主材とする低位泥炭で、色はN及び10YRで彩度1～2、明度2～4で、分解程度はおおむね不良である。下層との境界は判然としているものが多い。

第4層は地表下おおむね5.0～6.0cm以下で、ヨシを主材とする分解不良な低位泥炭である。3.0～8.0cmから湧水する。

代表的断面形態

(所在地)網走郡女満別町字本郷 試坑1225

第1層	0～13cm	腐植に頗る富む黒色(2.5y2/2)のCL、発達弱度の細粒状構造、膜状の酸化沈積物を含む。ち密度1.0以下で頗る疎、PH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り湿、層界判然。
第2層	13～22	腐植に頗る富む黒色(2.5y2/2)のCL、均質連結状、膜状の酸化沈積物を含む、ち密度1.4で疎。PH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り湿、層界波状判然
第3層	22～60	黒色(N2)の低位泥炭、分解不良、湿り潤、層界判然
第4層	60以下	灰褐色(2.5y3/2)の低位泥炭、分解不良、湿り潤

代表的断面の分析成績

層位	採取部位	水分%	粒径組成%				土性	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%	PH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土						H ₂ O	KCl
1	0～13	5.6	12.6	43.8	26.2	17.4	CL	8.28	0.64	13	14.3	5.3	4.3
2	13～22	5.3	14.3	41.7	25.3	18.7	CL	9.62	0.73	13	16.6	5.3	4.3
3	22～58	11.8	—	—	—	—	泥炭	—	—	—	—	5.3	4.4

層位	置換酸度Y ₁	塩基置換容量ml/100g	置換性塩基ml/100g			石灰飽和度%	30°C NH ₃ -N発生量mg/100g	有効態N mg/100g	P ₂ O ₅ mg/100g	磷酸吸収係数	遊離酸化鉄%	
			CaO	MgO	K ₂ O			乾土	湿土			
1	2.00	31.3	11.7	2.4	1.1	37.4	17.02	8.10	17.0	5.5	1,020	0.61
2	1.75	31.3	12.1	1.8	1.2	38.7	25.48	7.47	25.5	3.4	1,165	0.77
3	2.50	—	31.7	7.4	1.3	—	—	—	—	tr	1,143	—

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては住吉統、本郷統があるが、住吉統は水積、本郷統は水積／集積なので本統と異なる。

A-3 母材 ヨシ

A-4 堆積様式 集積

B 地形

網走川流域の低平地

C 気候

気候一般は冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見舞われ、冷害をしばしば受ける。

降水量年間800mm前後で少なく、春季強風が吹く。

D 植生及び利用状況

水稻が単作されている。

E 農業上の留意事項

本地帯は初夏の低温、秋期の早霜がしばしば水稻の生育収量に大きな影響を及ぼす稻作限界地帯である。これらの気象的災害を回避し克服するためには安全な品種を選択するとともに健苗の育成に努めかつ初期生育の促進を図る施肥管理が必要であろう。遅延生育相をたどりがちな本土壤統においては漏水の防止を図つて水温、地温の上昇に努め、初期生育を促進せしめる施肥技術が特に望ましい。

F 分布

女満別町字本郷 住吉の大部分

調査及び記載責任者 高尾鉄彌（北海道立中農業試験場）

昭和41年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
瑞治 - 1	IIIrltfn
" - 2	IIlrlf
" - 3	IIIrltfa

② 土壤区別説明

瑞治 - 1

示性分級式(水田)

土 壤 効 生 産 可 能 性 等 級	表有耕作土の層の厚さ	湛水性	酸性	土の風化度	自自然地の透水性	自自然地の保固土置	有効層の層換	微酸性の性状	微量元素量	有害物質の量	増地冠水の理	冠水の危険度
表土	表土	作土	易遊性	透保湿	保固土	置	有効層	微酸性	有物質	害物質	增地冠水の理	冠水の危険度
土	土	土	下化離	然	然	然	換	性	量	量	冠水の理	冠水の危険度
土	土	土	下cm	性酸	の性	の性	換	態	量	量	冠水の理	冠水の危険度
の層	の層	の層	50cm	還化	の還化	の還化	換	態	量	量	冠水の理	冠水の危険度
の粘	の粘	の粘	の風化	水潤	水潤	水潤	肥定塩	石苦加磷珪	害物質	害物質	冠水の理	冠水の危険度
の草	の草	の草	透水性	肥定塩	肥定塩	肥定塩	基	灰土里酸素酸要	害物質	害物質	冠水の理	冠水の危険度
の礫	の礫	の礫	の高鉄化	沃力	沃力	沃力	沃力	沃力	沃力	沃力	冠水の理	冠水の危険度
土着の	土着の	土着の	元鉄化	性度	性度	性度	性度	性度	性度	性度	冠水の理	冠水の危険度
厚	厚	厚	難性	水性	水性	水性	乾性	性度	性度	性度	冠水の理	冠水の危険度
等	等	等	性	含	含	含	含	含	含	含	冠水の理	冠水の危険度
級	級	級	ささ	量	性	性	湿	度	否	性	性	冠水の危険度
			td	P	1	r	w	f	n	i	a	

稻	■ ■ ■ I 2 1 1 ■ 2 3 ■ 2 3 3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	■ ■ ■ I 2 1 1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
稻	■ ■ ■ I 2 1 1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	■ ■ ■ I 2 1 1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

簡略分級式	IIIrltfn
-------	----------

(畠) IIIwltfn

A 土壤区の特徴

この土壤区は瑞治統に属する。作土の厚さは13~15cmでやや浅く、有効土層は1m以上で深い。作土は礫を含まず細粒質であるが粘着性中庸で耕起、碎土は容易である。湛水透水性が大で、還元化が進んでいる排水不良な泥炭水田である。保肥力大、磷酸固定力小で土層の塩基状態は中位である。有効態成分はおむね中庸である。障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

水稻单作が行なわれている。

C 地力保全上の問題点

おおむね暗渠排水は実施されているようであるが一部未了のところあるいは排水効果の低下しているところが見られるので、かかるところは早急に暗渠排水の完備が望ましい。暗渠排水効果の増大に伴つて漏水が激しくなるのを排水口の閉塞によつて防止しているようであるが、それでも尚漏水の大きいところが見られるので、漏水防止と合わせて鉱物質成分を附加するため粘土質土壤の客入が今後必要と考えられる。稲作限界地帯でかつ泥炭地水田であるため水稻生育相は出来遅れ型をとるのが一般的であるから、健苗育成技術の向揚と初期生育促進のため磷酸質肥料の増施並びに表層施肥、窒素質肥料の分施等を特に考慮すべきであろう。健苗育成、初期生育促進を目的とする施肥対策については女満別地区農業改良普及所において栽培試験を実施し、参考となる成績が得られている。

区画拡大は当然必要と思われるが、大型機械の支持力が稍々小さく、沈下、スリップ等運行上支障を来すおそれがある。又区画拡大工事後は切土部分の下部泥炭が露出するところは磷酸多肥を中心とした増肥或いは鉱質土の客入が必要と考えられ、また盛土部分は潜在窒素の発現調節を重点にした施肥が必要と考えられるが、現地において更に検討することが望ましい。

D 分 布

女満別町字本郷、住吉の大部分

記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

昭和41年3月31日

瑞 治 一 2

示性分級式(水田)

土 壤 生 产 力 可 能 性 等 级	表有表耕	湛	酸	土	自	養	障	災
	表表作上易遊グ	透保濕	保固土置	有	微透	有物	增地	
	効耘	土下化離ラ	然	層分換	"効"	害理	冠	
	松土の風	50の有化イ	地	の性態	"量	物的	べ	
	の層難	の乾50の還鐵化	水水潤肥定塩	石苦加磷珪	質	水の		
	の粘土透最鐵化	の	肥基	灰土里酸素設要	害の	危		
	土着硬	土高含	状含	度	害	害	険	
	厚深難性性さ	水性密元量度	乾性性度沃力力態	豐量	度	有	度	
	ささ量易	性性	湿度	否		性性		
	t d g p	1 r	w f	n		i a		
(稻) Ⅲ Ⅰ Ⅰ 2 1 1 Ⅲ 2 3 Ⅱ 2 3 3 - - - Ⅱ 1 2 2 I 1 1 1 2 2 - 2 1 I 1 1 I 1 1								
团单 地独								
(畑) Ⅲ Ⅰ Ⅰ 2 1 1 - - - Ⅲ Ⅲ 1 3 3 Ⅱ 1 2 2 I 1 1 1 2 - - 2 2 I 1 1 I 1 1								
簡略分級式 Ⅲ 1 H r f								
(畑) Ⅲ w Ⅲ は f								

A 土壤区の特徴

この土壤区は瑞治1区に比して作土に客入土が混入されているので区分したもので、作土の厚さは12~15cmでやや浅く、有効土層は1m以上で深い。湛水透水性が大で還元化が進んでいる泥炭湿田である。本区内で過湿の程度の強いところでは強還元による根系障害を受ける。

保肥力大、磷酸固定力小で土層の塩基状態はやや中庸である。有効態成分は中程度存在する。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

水稻が単作されている。

C 地力保全上の問題点

前区と全く同様であるが一応列記すると次の通りである。

1. 漏水防止、無機鉱質物附加のため、更に客土することが望ましい。
2. 暗渠排水の完備
3. 健苗育成
4. 初期成育促進化の施肥対策
5. 区画拡大に伴なう出来むらの施肥対策

D 分布

女満別町字本郷、住吉の一部

記載責任者 高尾欽爾（北海道立中央農業試験場）

昭和41年3月31日

瑞 治 一 3

示性分級式(水田)

土壤 生産 力可 能性等 級	表有表耕 効土雲 土の層 の疊 の土 の厚 さ	湛 下50cm 半透50cm 着硬 含難 性さ 量度	酸 下化 解離 性化 物化 水性 密度	自 土 然 地 の風 の半 粘土 土の高 土の高 土の高 土の高 性 性 性 性 w	透 下化 性 水 肥 水 定 鹽 基 灰 石 苦 加 磷 鐵 基 灰 土 里 加 磷 素 要 素 量 度 f	養 固土 の性 態 肥定 鹽基 灰土里 加磷 素要 素量 度 n	微 分換 の性 態 肥定 鹽基 灰土里 加磷 素要 素量 度 否 i	障 置 量 害 物 質 害 有 害 度 性 性 a
	t d g p	1 r	w	f	n			
(稻) Ⅲ I I I 3 2 1 Ⅲ 1 3 Ⅲ 3 3 3				—	—	—	—	—
				II 1 2 2 I 1 1 1 3 1 — 2 1 I 1 1 II 2 1				
(稻) Ⅳ Ⅲ I I 3 1 1				—	IV W 2 3 3 II 1 2 2 I 1 1 1 3 — 2 2 I 1 1 II 2 1			
簡略分級式	III I II trfa							

(稻) IVwII tpfa

A 土壌区の特徴

この土壤区は瑞治統に属する。網走湖岸に分布する極排水不良なところを区分したものである。作土は12~15cmでやや浅く、有効土層は1m以上で深い。湛水透水性は大であるが、地下水位は地表下20~30cmと高く、還元化が著しく進んでいる強湿田である。

保肥力大、磷酸固定力小で、土層の塩基状態は中庸である。有効態成分は中程度存在する。時に網走湖の湖水が逆流し冠水することがある。

B 植生及び利用状況

水稻が単作されているが一部は放置されている。

C 地力保全上の問題点

本地区は網走湖の水位の影響を受けて地下水位が高い強湿田であるが、住吉の方は台地との境界附

近に大排水を設置し、網走湖岸に築堤を施して耕地内の過剰水をポンプアップによつて湖に排除する工事が施行されつつあるので、この工事の完了に伴ない田地の排水が行なわれ、その効果が期待出来る。これに対し本郷に分布するものはこの恩恵に浴することが出来ず、現在のところ田地の排水を行なう方法がないので今後の問題点と思われる。

住吉に分布する本区にあつては建設工事の推進に伴ない客土を実施することが望ましく、他は本統1区に準ずる。即ち、1.暗渠排水の完全実施 2.潜在窒素の発現を調節する窒素質肥料の施肥対策 3.健苗育成技術の向揚 4.初期生育を促進せしめる施肥対策、等が挙げられる。

畑

豊里統

(1) 土壌統の概説

A 土壌区の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ18~20cmで腐植含量6~9%、土性はCLが主である。色は7.5yR~10yRで彩度1~2、明度1~3。細粒状構造で発達程度は中度のものが多く、細孔に富む。ち密度1.0~1.5で疎、PH(H₂O)5.7前後。下層との境界はおおむね判然としている。

第2層は厚さ10~15cmで腐植含量4~7%、土性はCL~Cである。色は7.5~10yRで彩度1~2、明度1~4、粒状、細塊状の複合構造で発達程度は中~強で、細小孔に富む。ち密度1.7~2.0で疎~中、PH(H₂O)5.6~5.7。下層との境界は波状漸変する。

第3層は厚さ20~30cmで腐植含量1~5%、土性はSLもしくはCである。色は10yRで彩度3~6、明度3~6、細塊状、塊状の複合構造で発弱度のものと均質連結状のものとが存在する。細小孔に富む、もしくは細小中孔を含むものとがある。ち密度1.9~2.2で中、PH(H₂O)5.6~5.8。下層との境界は波状漸変する。

第4層は地表下50~60cm以下で腐植を欠き、土性はL~CLである。色は10yRで彩度4~6、明度4~7、塊状構造で発達程度は弱度のものと均質連結状のものがある。細小孔を含む~富む。ち密度2.1~2.6で中~密、PH(H₂O)5.7前後。

代表的断面形態

(所在地)網走郡女満別町字豊里 試坑M188

第1層	0~18cm	腐植に富む黒色(7.5yR1/1)のCL、発達中度の細粒状構造、細孔に富む、ち密度1.3で疎、PH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾、境界平坦判然
第2層	18~28	腐植に富む黒色(7.5yR2/1)のLiC、風化細小半角礫を含む、発達中~強度の粒状、細粒状の複合構造、細孔に富む、ち密度1.7で疎、PH(H ₂ O)5.6、調査時の湿り半乾、境界波状漸変
第3層	28~47	腐植を含む暗褐色(10yR3/3)のLiC、発達中度の粒状と発弱度の細塊状の複合構造、細小孔に富む。ち密度1.9で中、PH(H ₂ O)5.6調査時の湿り半乾、境界波状漸変
第4層	47~63	腐植を欠く明黄褐色(10yR6/6)のCL、発達弱度の細塊状、塊状の複合構造、細小孔に富む、ち密度2.2で中、PH(H ₂ O)5.7、境界平坦判然
第5層	63以下	腐植を欠く淡黄色(2.5y8/4)のL、均質連結状、細小中孔あり、ち密度2.6密、湿り湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位cm	水分%	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	4.6	12.0	43.2	27.3	17.5	C L	77.6	2.36	5.54	0.37	1.5	9.6
2	18~28	7.1	6.2	30.5	35.0	28.3	L i C	77.8	2.31	3.95	0.34	1.2	6.8
3	28~47	5.2	6.9	33.2	33.5	26.4	L i C	90.4	2.75	2.65	0.22	1.2	4.6
4	47~63	5.0	10.4	36.0	36.1	17.5	C L	—	—	—	—	—	—

層位	PH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 ml/100g	置換性塩基ml/100g			石灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.7	4.7	0.75	31.4	17.0	1.4	0.7	54.1	99.3	11.5
2	5.6	4.5	1.00	42.2	21.0	3.3	0.5	49.8	1,564	0.6
3	5.6	4.5	1.00	26.4	13.1	2.0	0.9	49.6	1,017	3.4
4	5.7	4.4	1.00	14.8	6.6	4.4	1.4	44.2	804	0.6

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接または類似する統としては高間統、豊里西統、女満別川統、大成統があるが、高間統は浮石灰を母材とし、豊里西統は崩積、女満別川統は水積なのでそれぞれ本統と区別される。また大成統は凝灰岩を母材とするので本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩、固結火成岩(安山岩質)／非固結水成岩(凝灰質)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形

標高60~100mの台地で、平坦及び緩傾斜を呈する。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見舞われることがあり、冷害を受ける。

降水量年間800mm前後、春季強風が吹く。

D 植生及び利用状況

大部分畠地として利用され、蕎麦類、ビート、馬鈴薯、飼料作物が栽培されている。

E 農業上の留意事項

表土深く、この地帯の畠土壌としては地味のある方であるが、堅いち密層が下層に存在するため下層の透水がやや不良となり弱湿性を呈するところがあるので、かかるところは軽度の暗渠排水が必要であろう。

F 分布

女満別町字豊里、已沢、日進の一部

調査及び記載責任者 高尾欽彌(北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区名	簡略分級式
豊里 - 1	IIwfs
豊里 - 2	IIDws

(2) 土壤区別説明

豊里 一 1

示性分級式(畠)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表有表耕	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～	～
	効土	～	～	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	增地	自傾入	侵耐耐		
	松土	～	～	土	土	然	層分換	”	効	害理	冠	斜	為
	土の	～	～	の風	の	の性	態量	物的	水り	然	の	水風	
	の層	～	～	乾	水	潤肥	肥定塩	石苦加燒	質障害	の危	の	蝕	
	礫	～	～	粘土	水	基	灰土里酸要	の	の	傾	傾	蝕	
	土着の	～	～	使	水	状	豐量	”	度	度	度	向	度性性
	厚	～	～	難	乾	性	度	”	度	度	度	向	性
	深	～	～	性	性	度	度	”	度	度	度	向	性
	ささ量易	～	～	湿	度	否	性	性	斜	蝕			
	td g p	w	f	n			i	a	s	e			
	III	I	2	2	1	II	2	2	1	III	1	3	1
	I	1	1	1	1	I	1	1	1	I	1	1	I
	I	1	1	1	1	1	I	1	1	I	1	1	II
	2	—	—	—	—	—	2	—	—	I	1	1	I

簡略分級式 IIwfs

A 土壤区の特徴

この土壤区は豊里統に属する。表土の厚さは 1.5 ~ 2.0 cm で中庸、有効土層はおおむね 1 m 以上で深い。作土は礫なく細粒質で、粘着性中で耕起、碎土はやや容易である。第2層、第3層は土壤構造がよく発達していて透水はやや良好であるが、最下層がややち密なため透水がやや妨げられて弱湿性を呈する。一部やや堅密な層が高い位置に存在するところは湿性を呈する。

保肥力大、磷酸固定力は作土小、心土は中で土層の塩基状態は良好で、自然肥沃度は比較的高い。作土の有効態養分は比較的多い。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、豆類、ビート、馬鈴薯、飼料作物等が作付けられている。

C 地力保全上の問題点

一般に弱湿性を呈するから軽度の暗渠排水の実施が望ましく、一部は下層にち密な層が存在して排水不良を呈するから、かかるところは暗渠排水の実施が必要である。

D 分 布

女満別町字豊里

記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

昭和41年3月31日

豊里一2

示性分級式(畑)

土壌	表有表耕	～	土	～	自	～	養	～	障	～	災	～	傾	～	侵
生産力	効土	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	增地	自傾人	侵耐耐					
可能	土の	板土土の	地	然	層分換	”効	害理	冠す	斜	然為	水風				
等級	の層	の風	の堅	水水潤肥	肥定塩	石苦加磷	物的質	水り	為	のの	蝕				
	の	の	の	基	灰土里酸	要	害の障害	危	傾	傾	蝕				
	厚	含難性	性性さ	乾性性度	沃力力	態豐量	〃〃素度	無性	度度	斜向斜	度性性				
	深	ささ量易	湿	度	否	性	性	斜	蝕						
	t d f p	w	f	n	i	a	s		e						
	Ⅲ	I	II	I	2	2	1	II	2-322-3	I	1	2	1	I	1
	簡略分級式	Ⅱdws													

A 土壤区の特徴

この土壤区は豊里統に属する。本統1区より有効土層が浅いので区分した。表土は20～30cmで深く、有効土層は60～100mで中庸である。表土は細粒質であるが粘着性は中庸で耕起、碎土はやや容易である。下層にち密層の存在する場合が多く、これにより透水が妨げられて弱湿性を呈し、腐植の集積がやや厚い。

保肥力大、磷酸固定力は小、土層の塩基状態は良好で、自然肥沃度は高い。作土の有効態養分が多い方に属し、特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、豆類、ビート、馬鈴薯、小麦、飼料作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

弱湿性を呈するので軽度の暗渠排水が必要であろう。潜在窒素が多く作物は出来遅れ型を示す場合が多いから窒素質肥料の施用は初期生育の促進を図る程度に留め、施肥は磷酸、カリ、苦土等に重点をおくべきであろう。

D 分布

女満町字巴沢、日進の一部

記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

昭和41年3月31日

朝日統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12cm、腐植含量は10%、土性はCLである。色は10YR、彩度1、明度2である。礫なく、ち密度1.7～1.9で粗～中。湿めり半干。PH(H₂O) 6.1前後。下層への境界は波状明瞭である。

第2層は厚さ15cm内外。腐植含量は6%、土性はLICである。色は10YR、彩度3、明度2である。礫なく、ち密度2.1～3.1で中。発達中～良の細粒状構造と粒状構造の複合であり、細孔に富み、小孔も含む。湿めり半干。PH(H₂O) 5.4前後。下層への境界は波状漸変。

第3層は厚さ11cm内外。腐植含量は2.5%、土性はCLである。色は10YR、彩度8、明度5

である。未風化、半風化の細円礫を含み、均質連結状で、ち密度 2.7 を呈し密である。湿めり半干。pH (H₂O) 5.5 前後。下層への境界は波状漸変。

第4層は厚さ 3.8 cm 内外以下。腐植を欠き、土性は CL である。色は 10 YR、彩度 8、明度 7 である。未風化の細円礫を含み～富む、均質連結状で、ち密度 3.1 ～ 3.3 を示し頗る密で、斑状の酸化沈積物を含む。湿めり湿。pH (H₂O) 5.6 前後。

代表的断面形態

(所在地) 網走郡女満別町朝日 試坑 A-45

第1層	0～1.2 cm	腐植に頗る富む黒(10 YR 2/1)のCL、ち密度 1.7 ～ 1.9 で、中、pH (H ₂ O) 6.1 前後。調査時の湿めり半干、境界波状明瞭
第2層	1.2～1.7 cm	腐植に富む黒褐(10 YR 2/3)のLiC、ち密度 2.1 ～ 2.3 で中、発達中～良の細粒状構造と粒状構造の複合、細孔に富み、小孔を含む、pH (H ₂ O) 5.4 前後、調査時の湿めり半干、境界波状漸変
第3層	1.7～3.8 cm	腐植を含む黄褐(10 YR 5/8)のCL、ち密度 2.7 で密、未風化、半風化の細礫を含み、均質連結状である、pH (H ₂ O) 5.5 前後、調査時の湿めり半干、境界波状漸変
第4層	3.8 cm～	腐植を欠く黄橙(10 YR 7/8)のCL、ち密度 3.1 ～ 3.3 で頗る密の非有効土層、未風化の細円礫に富み、均質連結状で、透水性悪く不透水層、斑状の酸化沈積物を含む、pH (H ₂ O) 5.6 前後

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～1.2	4.3	11.1	37.8	29.4	21.7	CL	86.0	6.09	0.40	15
2	～2.7	4.8	10.3	26.0	33.9	29.8	LiC	85.1	3.80	0.25	15
3	～3.8	4.1	13.0	29.0	35.6	22.4	CL	118.0	1.52	0.16	10
4	3.8～	4.0	11.9	32.6	38.8	16.7	CL	—	—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	有効磷酸 (mg/100 g)
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
1	10.1	6.1	5.2	0.3	26.4	20.0	1.1	0.4	75.8	1,144
2	6.2	5.4	4.4	1.3	22.8	7.5	2.8	0.2	32.8	1,164
3	2.5	5.5	4.3	1.5	17.5	7.3	7.3	0.1	41.7	777
4	—	5.6	4.2	1.3	19.7	5.5	4.3	0.2	27.8	648

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接し、類似の統としては、大成統があるが、大成統は水成岩(凝灰岩)を母材としているが、本統は凝灰岩に安山岩等の火成岩を混入しているため区分される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形

標高 100 m 内外の略平坦なる台地

C 気候

気候は温暖であるが、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季冷涼に終始することがあり、冷害をうける。降水量は800mm前後で少なく、春季強風が多い。

D 植生及び利用状況

殆んど耕地され蕎麦類、麦類、馬鈴薯、牧草を栽培している。

E 農業上の留意事項

下層甚だ堅密で、通気性、根の伸長を妨げているので、排水の施行が望まれる。

F 分 布

網走郡女満別町朝日

調査及び記載責任者 野村 琥（北海道立中央農業試験場）

昭和40年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区の一覧

土壤区名	簡略分級式
朝日一朝日	IIItd IIwnie

② 土壤区別説明

朝 日 一 朝 日

示性分級式(畳)

土	表有耕	～～～	土	～～～	自	～～～	養	～～～	障	～～～	災	～～～	傾	～～～	侵	～～～			
壤	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	增地	自傾人	侵耐耐										
生	効土	土の	然	層分換	”効	害理	冠												
産	土	の風	の	の性	性	物的	水り	然斜為	水風										
力	土	の風	の	の水潤肥	肥定塩	石苦加磷	害質障害	のの	の傾										
可	の層	の粘土	の草	の水潤肥	基	灰土里酸要	害の危	傾方	傾										
能	の堅	土着硬	の性	の肥度	肥	石苦加磷	害の危	傾方	傾										
性	厚	含難性	性さ	乾性性度	沃力	力態豐量	素度	無性度	向向斜										
等	深	さき量易	湿	度	否	性	性	斜	斜										
級	t d g p	w	f	n	i	a	s	e											
四	III	III	I	II	1	1	II	1	2	1	1	1	1	1	—	II	1	—	2
	簡略分級式	IIItd	IIwnie																

A 土壤区の特徴

この土壤区は朝日統に属する。表土の厚さは1.2cm内外で薄い。ただし、第2層目の構造良好に発達している。有効土層は3.8内外で浅い。これは下層堅密で通気性悪く、根の伸長も妨げられ過湿のおそれが多い。保肥力大、固定力小、土層の塩基状態良で、自然肥沃度は高い。養肥分として特に不足するものはないが、苦土が中位である。有効土層浅く障害となっている。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、蕎麦類、麦類、牧草等を栽培している。

C 地力保全上の問題点

有効土層浅く湿害をうける土地で暗渠排水を要す。また心土破碎を4.0cm内外までの深さに施行し、排水を促進させると共に下層上の膨軟化を図る必要がある。

D 分 布

網走郡女満別町朝日

記載責任者 野村 球(北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

大成統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

第1層は厚さ16~17cm、腐植含量は10~11%、土性はL~CLである。色は10YR、彩度、明度1~2である。礫なく、ち密度15~21で粗~中。湿めり半干、pH(H₂O)5.7前後。下層への境界は波状明瞭である。

第2層は厚さ18~21cm、腐植含量は12%内外、土性はL~CLである。色は10YRで彩度0~1、明度1である。礫なく、発達中~強の細粒状構造と粒状構造の混合である。ち密度16~18で粗~中も可性、粘着性中、湿めり半干~湿。pH(H₂O)5.2~5.9。下層への境界は波状漸変である。

第3層は厚さ16cm内外、腐植含量は3%内外、土性はL~CLである。色は10YR、彩度4、明度3である。礫なく、発達弱度の粒状構造を呈し、細小孔、中孔あり。ち密度22~27で中~密。可性、粘着性中。湿めり半干~湿。pH(H₂O)5.2~5.7。下層への境界は波状漸変。

第4層は深さ5~3cm以下。腐植を欠き、中粒質である。色は10YR、彩度3、明度8である。未風化の小円礫あり、板状構造を呈し、ち密度29~31で頗る密に堆積し、非有効土層となつており、一時溝水層である。湿めり湿で、糸状、糸根状の酸化沈積物が存在する。pH(H₂O)5.9前後。

代表的断面形態

(所在地)網走郡女満別町 試坑A105

第1層	0~16cm	腐植に頗る富む黒(10YR 1/1)のCL、ち密度21で中、pH(H ₂ O)5.8前後、調査時の湿めり半干、境界波状明瞭
第2層	16~37cm	腐植に頗る富む黒(2.5Y 1/0)のCL、ち密度18で中、発達中~強の細粒状構造と粒状構造の混合、細小孔あり、pH(H ₂ O)5.9前後。調査時の湿めり湿、境界波状漸変
第3層	37~53cm	腐植を含む暗褐(10YR 3/4)のCL、ち密度27で密、発達弱度の粒状構造(一部は柱状構造)で細小孔あり、pH(H ₂ O)5.7前後、調査時の湿めり半干~湿、境界波状漸変
第4層	53cm~	腐植を欠く淡黄澄(10YR 8/3)のCL、ち密度29~31で頗る密、板状構造で、透水性悪く、糸状、糸根状の酸化沈積物を含む、調査時の湿めり湿

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~16	5.9	10.6	42.0	27.6	19.8	CL	67.3	—	—	—
2	~37	6.3	11.2	39.7	28.8	20.3	CL	72.0	8.08	0.49	16
3	~53	4.5	13.3	36.2	29.3	21.1	CL	96.3	1.49	0.12	12
4	53~	5.0	11.0	37.9	33.4	17.6	CL	—	—	—	—

層位	腐植 %	p H		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数 (mg/100g)
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
1	13.1	5.8	4.8	0.5	50.5	29.7	3.2	0.6	58.8	1,261
2	2.5	5.9	4.9	0.4	44.5	25.8	4.6	0.8	57.9	1,417
3	—	5.7	4.5	0.8	18.5	8.2	2.9	0.8	44.1	717
4	—	5.9	4.3	0.8	—	—	—	—	—	672
										2.0

A-2 他の土壤統との関係

本統は隣接し、類似の統としては朝日統があるが、母材が異なるに区分される。

A-3 母 材 非晶結水成岩(凝灰岩)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地 形

標高30～70m、沢頭に近い処、及び僅かではあるが凹地を呈する処に分布する。

C 気 候

気候は一般に温暖であるが、オホーツク海の気圧配置により夏季冷涼に終始することがあり、冷害をしばしばうける。降水量は800mm前後で少なく、春季強風が多い。

D 植生及び利用状況

沢頭に近く、傾斜の強い処は林地になつてゐるが、他は耕地化されている。

E 農業上の留意事項

排水を必要とする。更に作物の一部にみられる苦土欠乏、銅欠乏症等の微量元素対策が必要である。

F 分 布

網走郡女満別町湖南、大成、大東、朝日

調査及び記載責任者 野村 球(北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区の一覧

土壤区名	簡略分級式
大成 - 大成	IIIw IItdni

② 土壤区別説明

大成 - 大成

示性分級式(畳)

土壌生産力	表有表耕土効土土の風の乾の粘土の土の厚さの深さ	表透保濕土然然水水潤肥肥定鹽基性含	表保固土置換の性肥基状态態量	有微酸換の性鹽基状态態量	有物害理害質害有害性	增地冠水然然	地自水然然	自傾斜傾傾	傾人為危險方	侵耐水風侵蝕
可能	土の風の乾の粘土の土の厚さの深さ	土の風の乾の粘土の土の厚さの深さ	土の風の乾の粘土の土の厚さの深さ	土の風の乾の粘土の土の厚さの深さ	土の風の乾の粘土の土の厚さの深さ	土の風の乾の粘土の土の厚さの深さ	土の風の乾の粘土の土の厚さの深さ	土の風の乾の粘土の土の厚さの深さ	土の風の乾の粘土の土の厚さの深さ	土の風の乾の粘土の土の厚さの深さ
等級	ささ量易湿度否性	ささ量易湿度否性	ささ量易湿度否性	ささ量易湿度否性	ささ量易湿度否性	ささ量易湿度否性	ささ量易湿度否性	ささ量易湿度否性	ささ量易湿度否性	ささ量易湿度否性

IIIw IItdni

A 土壌区の特徴

この土壌区は大成統に属する。表土の厚さは16cm内外で中庸。有効土層は50cm内外で浅い。

表土は礫なく、中粒質で、粘着性弱、下層も中粒質であるが、腐植層は37cm前後で深く農具の使用は容易である。尚第2層の構造良く発達している。しかし50cm内外より以下は極めて堅密な堆積で、透水性悪く過湿のおそれが多い。

保肥力大、固定力小、土層の塩基状態良で、自然肥沃度は高い。

養肥分として特に不足するものはないが、磷酸含量が中位である。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

殆んど畑地で、豆類、麦類、ビート等を作付している。

C 地力保全上の問題点

湿性を呈する処が多いので、排水が必要である。

尚一部に銅欠、苦土欠等が発生しているので、此等の微量元素対策が必要である。

D 分 布

網走郡女満別町湖南、大成、大東、朝日

記載責任者 野村 球（北海道立中央農業試験場）

昭和40年3月31日

高 間 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~17cmで腐植含量6%前後、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度3、明度3のものが多い、細粒状構造で発達程度は中度である。細孔に富む。ち密度8前後で頗る疎、pH(H₂O)5.9前後。下層との境界は平坦判然である。

第2層は厚さ15cm内外で腐植含量4%前後、土性はCLが主である。色は10YRで彩度3、明度4のものが多い。粒状、細塊状の複合構造で発達程度は中度である。細孔に富む~頗る富む。ち密度1.7で疎、pH(H₂O)5.5。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ15cm内外で腐植含量2%以下、土性はLが主である。色は10YRで彩度3、明度5のものが多い。粒状と細塊状の複合構造で発達程度は弱度のものが多く、細孔に頗る富む。ち密度1.5で疎、pH(H₂O)5.2。下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下おおむね50cm以下で、腐植を欠き土性はSL~Lである。色は10YRで彩度4、明度7のものが多い。粗じょうな均質連結状で、細孔に富む。ち密度1.8前後で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)網走郡女満別町字高間 試坑M186

第1層	0~17cm	腐植に富む暗褐色(7.5YR 3/3)のCL、発達中度の細粒状構造、細孔に富む、ち密度8で頗る疎、pH(H ₂ O)5.9、調査時の湿り半乾、境界平坦判然
第2層	17~35cm	腐植を含む灰黄褐色(10YR 4/3)のCL、発達中度の粒状、細塊状の複合構造、細孔に頗る富む、ち密度1.7で疎、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾、境界波状漸変
第3層	35~50cm	腐植を欠く灰黄褐色(10YR 5/3)のL、発達弱度の粒状、細塊状の複

		合構造、細じて頗る富む、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)5.2、調査時の湿り半乾、境界波状漸変
第4層	50以下	腐植を欠く明黄褐色(10YR7/4)のL、粗じような均質連結状、細小孔に富む、ち密度1.8で疎、調査時の湿り湿

代表的断面の分析成績

層位 cm	採取部 位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容 積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~17	4.5	14.4	40.3	30.0	15.3	C L	6.8.9	2.31	3.77	0.28	13	6.5
2	17~35	4.3	12.2	37.6	34.1	16.1	C L	81.5	2.43	2.25	0.18	13	3.9
3	35~50	4.8	13.2	46.5	37.1	3.2	L	8.9.7	2.48	0.66	0.07	9	1.1

層位	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度%	磷酸吸収係數	有効態磷酸 mg/100g
	H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	5.9	4.9	0.5	25.3	16.8	2.3	0.5	66.4	862	23.0
2	5.5	4.2	6.75	22.2	7.5	1.9	0.7	33.8	1,229	1.7
3	5.2	4.1	12.25	15.7	3.4	2.4	0.6	21.6	917	1.1

A-2 他の土壤統との関係

本土壤に隣接または類似する統としては豊里西統、昭和統、中央統等があるが、豊里西統は崩積であり、昭和統、中央統は軽石流堆積物を母材とするので区別した。

A-3 母材 非固結水成炭(凝灰質)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形

標高60~100mの波状性傾斜地

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季低温に見舞われ、冷害をしばしば受ける。年降水量800mm前後で少なく、春季強風が襲来する。

D 植生及び利用状況

耕地には蕎麦類、馬鈴薯、麦類、飼料作物が作付けられているが、他は山林となつていて。

E 農業上の留意事項

開拓された傾斜地が多く土壤は耐水性が小さいので土壤侵蝕が甚しいから、等高線栽培、緑作帯の設置等水蝕防止対策が必要である。

F 分布

女満別町字高間

調査及び記載責任者 高尾欽彌(北海道立中央農業試験場)

昭和41年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
高間 - 高間	Hse It

② 土壤区別説明

高間 - 高間

示性分級式(畳)

土壌生産力の可能性等級	表有表耕土の効土土の風の層の粘土の土着の厚さ	表透保湿土の然の水水潤肥定塩の石苦加磷基の灰土里酸要の含難性性さ乾性性度沃力力態農量	自保固土置換の性態量の基状含	養有微酸物的害の有害	障害理害の無性	灾冠地害の傾斜方	傾地自然の危險度	侵斜地的侵蝕
	t d g p	w f n		i a s				e
	III	II I I I 2 1 1 I 1 2 1 I 1 2 1 I 1 1 1 1 1 2 I 1 1 I 1 1 III 3 -- III 2 3 2						
	簡略分級式	IIIse II t						

A 土壤区の特徴

この土壤区は高間統に属する。表土の厚さは 17 cm 内外で中庸、有効土層は 1 m 以上で深い。作土は細粒質であるが粘着性弱く耕起、碎土は容易である。土層の透水性はよく排水は良好であるが、耐水蝕性に乏しく、傾斜地であるため水蝕の発生が多い。

保肥力大、磷酸固定力小で土層の塩基状態は中庸である。有効態養分は作土は比較的あるが、下層土は石灰、磷酸に乏しい。特殊の障害性は存在しない。

B 種生及び利用状況

耕地には壹類、馬鈴薯、麦類、飼料作物等が作付けされているが、他は山林となつていて。

C 地力保全上の問題点

水蝕防止対策を主体とした作付体系と耕地の肥培管理が必要である。施肥面では加里の増施が必要であろう。

D 分布

女満別町字高間

記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

昭和 41 年 3 月 31 日

昭 和 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ 1.6 ~ 2.1 cm、腐植含量は 6 ~ 8 %、土性は CL である。色は 10 YR、彩度 2、明度 2 である。礫なく、ち密度 1.4 ~ 1.5 で疎、湿めり干~半干。pH (H₂O) 5.9 前後。下層への境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ 1.5 ~ 1.6 cm、腐植含量は 4 ~ 5 %、土性は L ~ SL である。色は 10 YR、彩度 4、明度 3 である。礫なく、発達弱度の細粒状構造を呈し、小孔を含む~富む、ち密度 1.6 内外で疎、可塑性、粘着性弱、湿めり半干、pH (H₂O) 5.9 前後、下層への境界は不規則漸変である。

第3層は厚さ20～21cm、腐植を欠き、土性はS L～Sである。色は10YR、彩度6～8、明度4～6である。疎なく、均質連結状で、小孔を含む～富む、ち密度1.2～1.6で疎。可塑性、粘着性弱、湿めり半干、pH(H₂O)6.0前後、下層への境界は波状漸変である。

第4層は深さ52cm内外以下、腐植を欠き、土性はS L～Sである。色は10YR、彩度8、明度6～7である。疎なく、均質連結状で、小孔、中孔を含む、ち密度1.3内外で疎。可塑性、粘着性弱、湿めり半干、pH(H₂O)6.1前後。

代表的断面形態

(所在地)網走郡女満別町昭和 試坑A6

第1層	0～16cm	腐植に富む黒褐(10YR 2/2)のCL、ち密度1.4で疎、pH(H ₂ O)5.8前後、調査時の湿めり干～半干、境界波状明瞭
第2層	16～31cm	腐植を含む暗褐(10YR 3/4)のS L、発達弱度の細粒状構造で小孔を含む～富む、ち密度1.6で疎、pH(H ₂ O)5.8前後、調査時の湿めり、半干、境界不規則漸変
第3層	31～52cm	腐植を欠く明黄褐(10YR 6/8)のL S、均質連結状で、ち密度1.2で疎、pH(H ₂ O)6.0前後、調査時の湿めり半干、境界波状漸変
第4層	52cm～	腐植を欠く黄橙(10YR 7/8)のL S、均質連結状、ち密度1.3で疎、pH(H ₂ O)6.1前後

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容積重g	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～16	4.5	12.0	43.1	26.5	18.4	CL	85.6	4.36	0.31	14
2	～31	6.5	20.1	56.6	14.1	9.2	SL	72.8	1.56	0.13	12
3	～52	4.5	32.3	52.8	7.3	7.6	LS	76.7	—	—	—
4	52～	2.9	35.9	52.8	2.1	9.2	LS	—	—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数 (mg/100g)
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
1	7.2	5.8	4.8	0.5	21.1	10.3	1.5	1.1	48.9	1,306
2	2.5	5.8	4.9	0.5	13.0	5.4	1.1	1.5	41.2	1,656
3	—	6.0	5.3	0.3	7.6	2.8	0.6	1.7	36.7	1,264
4	—	6.1	5.2	0.3	6.9	2.1	0.8	2.0	29.7	906

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接し、類似の統としては中央統があるが、母材が相違しているため区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形

標高30～60mの平坦な台地である。

C 気候

気候は一般に温度であるが、オホーツク海の気圧配置により夏季冷涼に終始することも珍らしくな

く、冷害をしばしばうける。降水量は 800mm 前後で少なく春季強風が多い。

D 植生及び利用状況

殆んど耕地に利用され、麦類、豆類、ビート、馬鈴薯等を栽培している。僅かに残る未耕地はかしわの疎林と、下草はさき、わらび等である。

E 農業上の留意事項

春先の風蝕のため、表土、肥料、種子が飛散し、その被害は多大である。このことが地力低下の一因にもなっているので、風蝕防止対策が望まれる。

F 分布

網走郡女満別町昭和、大東、大成

調査及び記載責任者 野村 譲（北海道立中央農業試験場）

昭和 40 年 3 月 31 日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区の一覧

土壌区名	簡略分級式
昭和 - 1	IIIe II t(w)
" - 2	IIIe II tfn
" - 3	IIIe II t(w) fn
" - 4	IIIe II t(w) fns

② 土壌区別説明

昭 和 - 1

示性分級式(畳)

土	表有表耕	～	土	～	自	～	養	～	障	～	災	～	傾	～	侵	～									
穀	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	增地	自傾人	冠す	然	斜為	然	耐	侵耐	侵	～									
生	効土	耘土	土地	然	層分換	"効	害理	水	べ	水	水	の	の	水	風	～									
產	土	土	の	然	の性	惡量	物的	水	然	然	然	の	の	風	風	～									
力	の	の	の	の	の	の	質的	水	然	然	然	の	の	風	風	～									
可	層	風	水	水	肥	定	石苦加磷	害	陸害	陸害	陸害	の	の	風	風	～									
能	礫	土	土	水	肥	塩	基	害	危	危	危	危	危	風	風	～									
性	土	着	着	潤	肥	定	灰土里酸要	害	傾	傾	傾	傾	傾	風	風	～									
等	の	方	方	の	の	の	の	害	方	方	方	方	方	風	風	～									
級	厚	含	難	性	性	性	度	沃	力	力	豐	量	" "	度	度	度	性								
	深	含	性	性	性	性	度	沃	力	力	豐	量	" "	度	度	度	性								
	さ	量	易	湿	度	否		性	性	性	無	性	度	度	度	度	性								
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e						性								
III	II	I	I	I	2	1	1	(II)	1	2	(2)	I	1~22	1	I	1~11	I	1~11	I	1	--	III	2	-	3
簡略分級式 IIIe II t(w)																									

A 土壌区の特徴

この土壌区は昭和統に属する。表土の厚さは 20 cm 内外で中庸。有効土層は 1 m 以上で深い。表土は疎なく中粒質で、粘着性弱、下層は中粒～粗粒質で、粘着性弱く農具の使用は容易である。透水性良好で過干のおそれがある。保肥力中～大、固定力小、土層の塩基状態良で自然肥沃度は高い。養肥分として特に不足するものないが磷酸含量は中位のため、磷酸肥料は多量に施用する事が望ましい。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、豆類、麦類、ビート、馬鈴薯等を栽培している。

C 地力保全上の問題

風蝕を受けるので、風蝕防止対策が必要である。

D 分 布

網走郡女満別町昭和、大東、大成

記載責任者 野村 琢（北海道立中央農業試験場）

昭和40年3月31日

昭 和 一 2

示性分級式(畳)

土壌	表有表耕	士	自	養	障	災	傾	侵
効土	表表表透保湿	保固土置	有微酸	有物	増地	自傾入	侵耐耐	
生土	松土土の地	然層分換"	"	害理	冠	然斜為	水廻	
産土	の風土の風	の性態	態量	物的	水り	のの	の	食
力の層	の乾土の水水潤肥	肥定塩の石苦加磷	害質的	害の障害	危	傾方	傾	蝕蝕
可能の礫	の粘土の土着の硬	基灰土里酸要	有害	危險	度	斜向斜	度	度性性
能性等級	厚深含難性性さ	乾性性度沃力力態	豊量" "	素度無性	度度	斜向斜	度	度性性
	ささ量易	湿度	否	性性	斜	斜	蝕	
	t d g p	w f n	i a s	e				
III	II II I 2 1 1 I 2 2 1 III 1 3 1 II 1 2 1 1 2 1 I 1 1 I 1 1 I 1 1 I 1 1 —— III 1 — 3							
簡略分級式	IIIe	II tfn						

A 土壌区の特徴

この土壌区は昭和統に属する。表土の厚さは16cm内外で中庸。有効土層は1m以上で深い。表土は礫なく、中粒質で、粘着性弱、下層は凝灰質に石英粗面岩（火成岩）を混じ、粘着性中庸で農具の使用は容易である。透水性は中庸で過干のおそれはない。

保肥力大、固定力中、土層の塩基状態良で自然肥沃度は中庸である。

養肥分として特に不足するものはないが、苦土含量は中位である。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、荳類、麦類、ピート、馬鈴薯を栽培している。

C 地力保全上の問題点

前の土壌区同様風蝕防止対策が必要である。

D 分 布

網走郡女満別町大東

記載責任者 野村 琢（北海道立中央農業試験場）

昭和40年3月31日

示性分級式(畳)

土壌	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生産力	効土	表透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地	自傾人
可能力	耘土	土の風	然	層分換	効	害理	冠	侵耐耐
可能	土の層	の乾	水水潤肥	定塩	石苦加燒	物的	水り	斜為
等級	の粘土	の粘土	肥基	灰土里酸要	質障害	のの	然	水風
	土着の種	状含		害の危	危險	の	斜方	蝕
	厚深	難性性さ	乾性性度	沃力力態	豐量	無性度	度度	度性性
	t d g p	w	f 1	n	i	a	s	e
	III	II III I 2 1 1(II) 1 2(2)	II 2	2 2 II 1 2 1 2 2 1	I 1 1 I 1 1 I 1 1	I 1 1 I 1 1 I 1 1 --	II 2 - 3	
	簡略分級式	III e	II t (w) f n					

A 土壤区の特徴

この土壤区は昭和統に属する。表土の厚さは 16 cm内外で中庸。有効土層は 1 m以上で深い。表土は疊なく中粒質で、粘着性弱、下層は粗粒質で、可塑性、粘着性弱で農具の使用は容易である。透水性良好で過干のおそれがある。

保肥力中～大、固定力小、土層の塙基状態中で、自然肥沃度は中庸である。

養肥分としては特に不足する成分はないが、苦土、磷酸含量の中位の處が多い。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

耕地化され、豆類、麦類、ビート、馬鈴薯を栽培している。

C 地力保全上の問題点

前の土壤区同様風蝕防止対策が必要である。

D 分布

網走郡女満別町湖南、昭和、大成

記載責任者 野村 球(北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

示性分級式(畳)

土壌	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生産力	効土	表透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地	自傾人
可能力	耘土	土の風	然	層分換	効	害理	冠	侵耐耐
可能	土の層	の乾	水水潤肥	定塩	石苦加燒	物的	水り	斜為
等級	の粘土	の粘土	肥基	灰土里酸要	質障害	のの	然	水風
	土着の種	状含		害の危	危險	の	斜方	蝕
	厚深	難性性さ	乾性性度	沃力力態	豐量	無性度	度度	度性性
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e
	III	II III I 1 1(II) 1 2(2)	II 2	2 2 II 1 2 1 2 2 1	I 1 1 I 1 1 I 1 1	I 1 1 I 1 1 I 1 1 --	II 2 - 3	
	簡略分級式	III e	II t (w) f n s					

A 土壤区の特徴

この土壤区は昭和統に属する。表土の厚さは15cm内外でやや浅く、有効土層は1m以上で深い。作土は中粒質で粘着性弱く耕起、碎土は容易である。

保水性はやや強いが透水性が過良なため春季強風の襲来によつて表土が飛散し、風蝕を受ける。また緩傾斜地～傾斜地では水蝕が発生する。

保肥力中、磷酸固定力は作土は小であるが心土は大であり、土層の塩基状態は良好である。作土は有効態磷酸、苦土がやや少ない。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、豆類、ビート、馬鈴薯、麦類、飼料作物等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

風蝕の発生が多いから防風林の完備が必要であり、また緩傾斜地～傾斜地は水蝕が発生するから等高線栽培、縁作帯の設置或は牧草作付等の防止対策が必要である。土壤は腐植に乏しいから堆肥の施用或いは牧草の輪換栽培等により有機物の補給が特に必要である。養分の流失し易い土壤と考えられるから施肥面では緩効性窒素肥料の併用、磷酸、カリ、苦土の増施が望ましい。尚ビートに対する硼素入り肥料の使用は当然であろう。

D 分 布

女満別町字日進、開陽、豊里

記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

昭和41年3月31日

中 央 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～22cm、腐植含量は7～9%、土性はL～CLである。色は7.5～10.0YR、彩度2、明度2である。礫なく、ち密度1.2～1.5で粗。湿めり半干。pH(H₂O)5.8前後。下層への境界は波状明瞭である。

第2層は厚さ18～28cm、腐植含量は2%内外、土性はL～CLである。色は7.5～10.0YR、彩度4、明度3～4である。礫なく、発達中度の細粒状構造と、粒状構造の混合である。細小孔を含む。ち密度1.8～2.1中。湿めり半干。可塑性、粘着性中。pH(H₂O)5.8前後。

下層への境界は波状漸変である。

第3層は深さ48cm内外以下。腐植を欠き、土性はLiCである。色は7.5～10.0YR、彩度6～8、明度4～5である。礫なく、発達中度の粒状構造と、塊状構造の混合で細小孔を含む。ち密度1.4～2.1で粗～中。可塑性、粘着性中。pH(H₂O)5.7前後。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地)網走郡女満別町中央 試坑137

第1層	0～22cm	腐植に富む。黒褐(10YR 2/2)のCL、礫なく、ち密度1.2で疎、pH(H ₂ O)5.7前後、調査時の湿めり半干、境界波状明瞭
第2層	22～40cm	腐植を含む。暗褐(10YR 3/4)のCL、ち密度2.1で中、発達中の細粒状構造と粒状構造の複合、細小孔を含む、pH(H ₂ O)5.7前後、調査時の湿めり半干、境界波状漸変。
第3層	40cm～	腐植を欠く褐(10YR 4/6)のLiC、ち密度2.1で中、発達中度の粒

		状構造と塊状構造の複合、細小孔を含む、pH(H ₂ O) 5.8前後
--	--	---

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容積重g	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0~22	3.8	9.2	42.7	29.7	18.4	CL	75.5	4.22	0.30	14
2	~40	5.0	2.6	31.6	41.0	24.8	CL	100.1	1.45	0.14	10
3	40~	5.1	8.2	35.8	28.2	27.8	LiC	107.6	—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸級取係数 (mg/100g)
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
1	7.0	5.7	4.9	0.5	25.4	17.6	1.0	2.1	69.2	823
2	2.4	5.7	4.5	0.8	20.8	11.1	2.9	2.2	53.2	879
3	—	5.8	4.6	0.5	22.7	7.9	4.0	2.2	34.9	990
										1.2

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接し、類似の統としては昭和統があるが、母材が相違しているため区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形

標高40~60mの略平坦な台地である。

C 気候

気候は温暖であるが、しばしばオホーツク海の気圧配置により、夏季冷涼に終始することがあり、冷害をうける場合がある。降水量は800mm前後で少なく、春季強風が多い。

D 植生及び利用状況

大部分耕地化され、麦類、豆類、馬鈴薯等を栽培している。

E 農業上の留意事項

春先の風蝕のため表土、肥料、種子が飛散する恐れがある。風蝕防止対策が望まれる。

F 分布

網走郡女満別町中央、東栄、朝日

調査及び記載責任者 野村 譲(北海道立中央農業試験場)

昭和40年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区の一覧

	簡略分級式
中央 - 1	IItn e
" - 2	IIte
" - 3	IItwne
" - 4	IItfnse

② 土壤区別説明

中 央 一 1

示性分級式(畳)

土壌生産力可能性能等級	表有表耕 効土 土の層 の疊 の厚 深さ	表表表 耘土の の乾の 粘土の 土着の 含難性 量易	透保濕 土地 然の 水水潤 肥定肥 基の 状態 度易	保固土 然の 水基の 肥基の 状態 否	置層 分換の 性態 量	有微酸 効量 の性態 量	有物害 害理質 的要	增地冠 べ害的 の障害 度度	自傾人 斜為然 の傾危 度度	侵耐耐 水風的 的傾傾 斜向斜	侵耐耐 水風的 的傾傾 度性性
t d g p	w	f	n		i	a	s				e
II II III 2 1 1 I 2 2 1 I 1 2 1 II 1 2 1 1 1 1 I 1 1 1 I 1 1 1 I 1 1 1 -- II 1 - 2											
簡略分級式 II tne											

A 土壤区の特徴

この土壤区は中央統に属する。表土の厚さは 2 2 cm内外で中庸。有効土層は 1 m 以上で深い。

表土は砾なく、中粒質で、粘着性弱、農具の使用は容易である。下層は中粒質で、構造比較的発達し、粒状～細粒状構造の複合で、細小孔を含み、理学性も良好で過湿、過干のおそれはない。

保肥力大、固定力小、土層の塩基状態良で自然肥沃度は高い。

養肥分として特に不足するものはないが、苦土含量が中位である。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、蕓類、麦類、ビート、馬鈴薯等を栽培している。

C 地力保全上の問題点

風蝕を受ける恐れがあるので、これの防止対策が望まれる。

D 分 布

網走郡女満別町中央、大東

記載責任者 野村 球(北海道立中央農業試験場)

昭和 40 年 3 月 31 日

中 央 一 2

示性分級式(畳)

土壌生産力可能性能等級	表有表耕 効土 土の層 の疊 の厚 深さ	表表表 耘土の の乾の 粘土の 土着の 含難性 量易	透保濕 土地 然の 水水潤 肥定肥 基の 状態 度易	保固土 然の 水基の 肥基の 状態 否	置層 分換の 性態 量	有微酸 効量 の性態 量	有物害 害理質 的要	増地冠 べ害的 の障害 度度	自傾人 斜為然 の傾危 度度	侵耐耐 水風的 的傾傾 斜向斜	侵耐耐 水風的 的傾傾 度性性
t d g p	w	f	n		i	a	s				e
II II III 2 1 1 I 2 2 1 I 1 2 1 II 1 2 1 1 1 1 I 1 1 1 I 1 1 1 I 1 1 1 -- II 1 - 2											
簡略分級式 II te											

記載責任者 野村 琥（北海道立中央農業試験場）

昭和40年3月31日

中　央　一　4

示性分級式（畳）

土 壤 生 產 力 可 能 性 等 級	表有表耕 効土 土の の層 の層 の 可能 性 等 級	土 耘土 土地 の風 の粘土 の土着 の厚 さ	自 透保湿 然 然 水水潤 肥肥基 含	養 保固土 層分換 の性 態量 肥塩の 石苦加磷 灰土里酸要 有害	障 置 有微酸 換〃効 物的 害理 害の障 害の危 害の危 害の無 害の無	災 增地 冠すべ 然為 水の危 險度	傾 自傾人 斜為 水風 傾方 傾向	侵 侵耐耐 蝕 蝕
	t d f p	w	f	n	i	a	s	e 1 }
II III I 1 1 I 1.2 1 II 2 2 2 II 2 2 1 2 1 2 I 1 1 I 1 1 II 2 -- II 2 2 3								
簡略分級式 III tf nse								

A 土壤区の特徴

この土壤区は中央統に属する。作土の厚さは 20 cm内外で中庸、有効土層は 1 m 以上で深い。作土は中粒質で粘着性弱く耕起、砂土は容易である。保水性やや弱いが透水性中庸で排水は良好である。耐侵蝕性が強くないので、春季強風時には風蝕を受けることがある。また傾斜地～緩傾地では弱～中度の土壤侵蝕を受けている。

保肥力、磷酸固定力とともに中庸で、土層の塩基状態は中庸である。作土は有効態磷酸及び石灰、苦土、加里等の塩基は中程度存在するが、やや酸性を呈する。心土は石灰飽和度が低く、有効態磷酸に不足している。特殊の障害性は存在しない。

B 植生及び利用状況

大部分耕地として利用され、豆類、ピート、馬鈴薯、麦類、飼料作物が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

風蝕のおそれがあり、緩傾斜地～傾斜地では水蝕のおそれがあるから防風林の設置、緑作帯の設置等風水蝕の防止対策が必要であろう。

腐植含量が低いので地力の維持培養上堆厩肥の施用或は牧草の輪換作付による緑肥の施入等有機物の補給が必要であり、また土壌は養肥分が流失し易いと考えられるから磷酸と合せて加里、苦土の増施が望ましく、緩効性窒素質肥料の併用も考慮してよいであろう。尚ピートに対する硼素入り肥料の使用は当然必要であろう。

D 分 布

女満別町字日進

記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

昭和41年3月31日

巴　沢　統

(1) 土壤統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～17cm、腐植含量は8～9%、土性はCLである。色は10YR、彩度1、明度1～2である。未風化の小円礫を含み、ち密度1.1～1.2で疎。湿めり半干。pH(H₂O)6.0前後。下層への境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ15～20cm、腐植含量は6～7%、土性はCLである。色は10YR、彩度1、明度1～2である。未風化の小円礫を含み、発達弱度の細粒状構造と粒状構造の複合、ち密度1.7～1.8で疎～中。湿めり半干。pH(H₂O)6.1前後。下層への境界は不規則漸変である。

第3層は厚さ13～16cm、腐植含量は2～3%、土性はCLである。色は10YR、彩度4、明度3である。未風化の中円礫、半角礫を含み、発達弱度の細粒状構造で、細小孔を含む、ち密度1.9～2.0で中。湿めり半干。pH(H₂O)6.2前後。下層への境界は不規則漸変である。

第4層は45cm内外以下で、腐植を欠き、未風化の小中、大円礫、半角礫に富む～頗る富む層である。

代表的断面形態

(所在地)網走郡女満別町巴沢 試坑A 58

第1層	0～17cm	腐植に富む、黒(10YR 2/1)のCL、未風化の小円礫を含み、ち密度1.2で疎、pH(H ₂ O)6.0前後、調査時の湿めり半干、境界不平坦明瞭
第2層	17～32cm	腐植に富む、黒(10YR 1/1)のCL、未風化の小円礫を含み、ち密度1.7で粗、発達弱度の粒状構造と細粒状構造の複合、pH(H ₂ O)6.1前後調査時の湿めり半干、境界不規則漸変
第3層	32～45cm	腐植を含む、暗褐(10YR 3/4)のCL、未風化の中円礫、半角礫を含み、ち密度2.0で中、発達弱度の細粒状構造で、細小孔を含む、pH(H ₂ O)6.2前後、調査時の湿めり半干、境界不規則漸変
第4層	45cm～	腐植を欠く、褐(10YR 4/6)の中粒質(触感)未風化の小、中、大円礫、半角礫に富む～頗る富む。

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～17	4.3	20.6	34.0	27.0	18.4	CL	72.7	4.83	0.37	1.3
2	～32	4.0	24.2	35.4	23.2	17.2	CL	80.7	4.58	0.36	1.3
3	～45	3.0	26.9	29.7	25.9	17.5	CL	—	1.86	0.15	1.2

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数 (mg/100g)	有効磷濃度 (mg/100g)
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	8.0	6.0	5.2	0.3	28.2	20.3	3.1	1.0	71.9	9.96	17.2
2	7.7	6.1	5.2	0.3	27.2	17.1	4.1	0.6	62.9	1,007	5.2
3	3.1	6.2	5.0	0.3	16.7	9.8	3.4	1.3	58.6	7.68	1.4

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては、昭和統、大成統、朝日統、女満別川統があるが、本統の堆積様式は崩

積で他の土壤統と異なるため区分される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 崩積

B 地形

標高200～100m、傾斜5～12°の緩傾斜～急傾斜を呈す。

C 気候

気温は温暖であるが、オホーツク海の気圧配置により、しばしば夏季冷涼に終始することがあり冷害をうける。降水量は800mm前後で少なく、春季強風が多い。

D 植生及び利用状況

急傾斜地は薪炭林で、緩傾斜地に作物を栽培しているが、水蝕を強く受けている。

E 農業上の留意事項

降雨時、融雪時の水蝕を強く受けているので、水蝕防止対策が必要である。

F 分布

網走郡女満別町巴沢、朝日

調査及び記載責任者 野村 瑛（北海道立中央農業試験場）

昭和40年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区の一覧

土壤区分	簡略分級式
巴沢 - 1	III dse II ti
" - 2	II tse

② 土壤区別説明

巴 沢 - 1

示性分級式(畳)

土壤 生産力 可能 性等 級	表有表耕 効土 土の の層 の疊 土着の 厚さ ささ量 t à g p	表透保湿 松土 土地 の風 粘土の の水 水潤肥 肥定塩 基質 含 ささ量易 w	自保固土 然然 の土 の水 肥 肥 基 状 ささ 度 度 否 f	養置 層分換 の性 態量 石苦加磷 基灰土里酸 含 性 否 n	障微酸 "効 害理 物質的 害の 害 度 度 度 度 a	灾有物 害理 物質的 害の 害 度 度 度 度 s	傾 自領人 斜為 水 の 度 度 度 度 斜 e	侵 耐 蝕 蝕 蝕 蝕 方 向 e
III III I I 2 1 1 I 2 2 1 I 1 2 1 I 1 1 1 1 1 II 1 2 I 1 1 III 3 — III 3 3 —								
簡略分級式 III dse II ti								

A 土壤区の特徴

この土壤区は巴沢統に属する。表土の厚さは17cm内外で中庸。有効土層は45cm内外で薄い。表土は疊を含み、中粒質で、粘着性弱く、農具の使用は容易である。傾斜の強い事と相まって土壤侵蝕を受けている。45cm内外以下は疊層となり作物根の伸長を妨げ、非有効土層であるが過干のおそれ

はない。保肥力大、固定力小、土層の塩基状態良で自然肥沃度は高い。養肥分として不足せるものはない。礫層が浅く障害となつてゐる。

B 植生及び利用状況

比較的緩傾斜地を選んで作付している。急傾斜地は薪炭林、草地として利用されている。

C 地力保全上の問題点

急傾斜地が多く、土壤侵蝕を強く受けている。現在伏流水を排除する排水溝を設置しているが、多量の降雨時、融雪時には伏流水が流溢し、ガリ侵蝕が認められる。これの根本的な対策が必要である。

D 分 布

網走郡女満別町巴沢

記載責任者 野村 琥（北海道立中央農業試験場）

昭和40年3月31日

巴 沢 一 2

示性分級式（畑）

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵	耐
効土	表表透保湿	保固土置	有微酸	有物	増地	自傾入	侵耐耐	
土	松土土の地	然	層分換	効	害理	冠す		
土の	の風水水潤肥	の性	の性	の性	然	斜為	水風	
の層	の草の水肥定	の層	の層	の層	水り	のの	のの	
の	の粘土の肥定	の	の	の	然	為	風	
可能	の礫土着の肥	の	の	の	物質的	の	の	
性	の厚含難性性	の乾性性	の度	の度	害の障害	危急	傾傾	
等	の深含難性性	の乾性性	の度	の度	害の障害	危險	傾方	
級	ささ量易	湿	度	否	性	性	斜	蝕
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e
II	III	I	2	1	I	2	1	I
	I	1	2	1	I	1	1	I
	I	1	1	1	I	1	1	I
	I	1	1	1	I	1	1	I
	I	1	1	1	I	1	1	I
	II	1	1	1	II	1	1	II
	1	1	1	1	1	1	1	1
	—	—	—	—	—	—	—	—
	II	1	—	—	—	—	—	—

簡略分級式 II tse

A 土壌区の特徴

この土壤区は巴沢統に属する。表土の厚さは15cm内外で中庸。有効土層は1m以上で深い。

表土は礫なく、中粘質で、粘着性弱く、農具の使用は容易である。尚傾斜は3内外で、水蝕は殆ど認められないが、風蝕の恐れはある。

保肥力大、固定力小、土層の塩基状態良で、自然肥沃度は高い。養肥分として特に不足せるものはない。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、豆類、麦類、ビート等を作付している。

C 地力保全上の問題点

土壤的にみて問題点は少ないが、処により風蝕の恐れがある。

D 分 布

網走郡女満別町朝日

記載責任者 野村 琥（北海道立中央農業試験場）

昭和40年3月31日

豊里西統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm内外で腐植含量10%前後、土性はCLが主である。色は10YRで彩度1、明度1のものが多い。風化小中大半角礫を含む～富む、細粒状構造で発達程度は中度である。細孔に富む。ち密度8～16で頗る疎～疎。pH(H₂O)5.5前後。下層との境界はおおむね判然としている。

第2層は厚さ20cm内外で腐植含量10～12%、土性はCLが主である。色は7.5YRで彩度1～2、明度2。風化小中大半角礫を含む～富む、細粒状、粒状の複合構造で発達程度は中～強度で、細小孔に富む～頗る富む。ち密度16～19で疎～中、pH(H₂O)5.7。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ20～30cmで腐植含量2%以下、土性はCLが主である。色は7.5～10YRで彩度2～4、明度3～4。粒状、細塊状の複合構造で発達程度は中度である。細小孔に富む。未風化、風化細小中大半角礫に富む。ち密度1.8前後で疎、pH(H₂O)6.1、下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下60～70cm以下で腐植含量2%以下、土性はS～CL(農学会報触感)。色は7.5～10YRで彩度3～6、明度4～5。単粒状もしくは細塊状構造で発達程度は弱度である。未風化、風化小中大半角礫に富む～頗るかあるいは砂礫層となつている。

代表的断面形態

(所在地)網走郡女満別字豊里 試坑M.183

第1層	0～18cm	腐植に頗る富む黒色(10YR1/1)のCL、風化中大半角礫を含む、発達中度の細粒状構造、ち密度8で頗る疎、pH(H ₂ O)5.5、調査時の湿り半乾、境界平坦判然
第2層	18～40	腐植に頗る富む黒色(7.5YR2/2)のCL、風化、腐朽細小中半角礫に富む、発達やや強度の粒状、細粒状の複合構造、細孔に頗る富む、ち密度16で疎、pH(H ₂ O)5.7、調査時の湿り半乾、境界波状漸変
第3層	40～65	腐植を含む暗褐色(7.5YR3/2)のCL、未風化、風化細小大半角礫に頗る富む、発達弱度の粒状、細塊状の複合構造、細孔に富む、ち密度18で疎、pH(H ₂ O)6.1、調査時の湿り湿、境界波状漸変
第4層	65以下	未風化、風化小中大半角礫による礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0～20	8.8	13.9	45.0	24.9	16.2	CL	—	—	6.31	0.49	13
2	20～40	7.8	20.8	22.7	34.0	22.5	CL	—	—	7.38	0.55	13
3	40～60	6.2	24.0	30.3	26.5	19.2	CL	—	—	—	—	—

層位	腐植%	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態換酸 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	1.0.9	5.5	4.7	0.75	36.8	22.4	2.9	1.2	60.9	1.067	22.4
2	1.2.7	5.7	4.7	0.75	44.9	22.4	4.9	0.8	49.9	1.679	1.1
3	—	6.1	5.1	0.25	27.3	15.2	5.7	2.1	54.7	1.189	2.1

A-2 他の土壤統との関係

本土壤に隣接または類似する統としては豊里統、高間統、巴沢統等があるが豊里統は洪積世堆積、高間統は洪積世堆積（凝灰質）なので本統と堆積様式が異り、巴沢統とは母材に相違が見られるので本統と区別される。

A-3 母材 固結火成岩

A-4 堆積様式 崩積

B 地形

標高70～150mの波状性傾斜地

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見舞われて冷害を受ける。年降水量800mm前後で少なく、春季は強風が吹く。

D 育生及び利用状況

大部分山林になっているが、傾斜の緩かなところは耕地に利用され蕎類、麦類、馬鈴薯、飼料作物ビート等が栽培されている。

E 農業上の留意事項

緩傾斜～傾斜地が多く、水飽の発生がかなり見られるから等高線栽培、緑作帯の設置あるいは牧草地化等の水蝕防止対策が必要である。

F 分布

女満別町字住吉、豊里の傾斜地帶

調査及び記載責任者 高尾鉄羽（北海道立中央農業試験場）

昭和41年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覧

土壤区別	簡略分級式
豊里西－豊里西	IIIstdgpe

② 土壤区別説明

豊里西－豊里西

-38-

示性分級式(畠)

土壌生産力可能性等級	表有表耕～～～土～～～自～～～養～～～障～～～災～～～傾～～～侵	自～～～增地～～～冠～～～斜～～～水風	自領人～～～斜為～～～然の～～～の	侵耐耐
効土土の層の疊の厚さ	透保湿土の堅性含難性性さ	保固土置層分換"効肥定塩基灰土里酸要害の障害無性成度	有微酸性含態量石苦加燒害の障害無性成度	物害理物的害危險度
土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ
土の堅性含難性性さ	水水潤肥定塩基灰土里酸要害の障害無性成度	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ
土の堅性含難性性さ	肥定塩基灰土里酸要害の障害無性成度	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ
土の堅性含難性性さ	石苦加燒害の障害無性成度	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ
土の堅性含難性性さ	害の障害無性成度	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ
土の堅性含難性性さ	無性成度	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ
土の堅性含難性性さ	度	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ
土の堅性含難性性さ	さき量易	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ
土の堅性含難性性さ	t d g p	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ
土の堅性含難性性さ	w	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ
土の堅性含難性性さ	f	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ
土の堅性含難性性さ	n	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ
土の堅性含難性性さ	性	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ
土の堅性含難性性さ	性	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ
土の堅性含難性性さ	斜	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ
土の堅性含難性性さ	s	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ
土の堅性含難性性さ	e	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ	土の堅性含難性性さ
III	II III II 2 2 1 I 2 2 1 I 1 2 1 I 1 1 1 1 1 2 I 1 1 1 I 1 1 III 3 —— II 2 2 1			
簡略分級式	III s	II t d g pe		

A 土壌区の特徴

この土壤は豊里西統に属する。作土の厚さは 20cm内外で中庸、有効土層は 60～100cmで中庸である。保水性中庸で下層は疊に頗る富むか疊層となつてゐるが排水は中庸である。

保肥力大、磷酸固定力は作土は小で心土は中、土層の塩基状態は中庸である。作土は有効態磷酸、石灰、苦土、加里等の塩は多く存在するが心土の有効態磷酸含量が低い。やや酸性を呈する。特殊の障害性は存在しないが、傾斜のため水蝕が発生する。尚表土から風化中大半角疊が出現し耕起、碎土に支障を來す場合がある。

B 植生及び利用状況

大部分は山林となつており、傾斜の緩かなところは耕地に利用され、豆類、麦類、馬鈴薯、飼料作物等が栽培されている。

C 地力保全上の問題点

等高線栽培、縁作帯の設置等水蝕の防止対策が必要であり、ところにより除疊を必要とする。

D 分 布

女満別町字豊里、住吉の傾斜地帯

記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

昭和41年3月31日

住 吉 西 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ 1.9～2.0cmで腐植含量 4%内外、土性は CL が主である。色は 7.5～10 YR で彩度 1～3、明度 4。細粒状構造で発達程度は中度のものが多い。ち密度 8～9 で頗る疊、pH (H₂O) 5.3 前後。下層との境界は判然としている。

第2層は厚さ 1.0～2.0cmで腐植含量 2%以下、土性は SL～L である。色は 2.5～7.5 Y で彩度 1～2、明度 5～7。均質連結状で細孔を含む～富む。膜状の鉄の酸化沈積物を含む～富む。ち密度 1.5～2.1 で疊～中、pH (H₂O) 5.0 前後。下層との境界は波状漸変である。

第3層は厚さ 3.0cm内外で腐植含量 2%以下、土性は L～CL である。色は 5～10 Y で彩度 1～2、明度 5。均質連結状で細孔に富む。ち密度 1.4～1.6 で疊、pH (H₂O) 5.0 前後。管状の鉄

の酸化沈積物を含む下層との境界は波状漸変である。

第4層は地表下60~70cm以下で、腐植を欠き、土性はL~CLである。色は7.5~10Yで彩度1、明度5。均質連結状で細小孔を含む。ち密度1.3~1.5で疎、管状の鉄の酸化沈積物を含む。

代表的断面形態

(所在地)網走郡女満別町字住吉 試坑A177

第1層	0~20cm	腐植を含む灰黃褐色(10YR 4/3)のCL、発達中度の細粒構造、ち密度9で頗る疎、pH(H ₂ O)5.3、調査時の湿り半乾、境界平坦明瞭。
第2層	20~35	腐植を欠く黃灰色(5Y6/2)のSL、均質連結状で細小孔に富む、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)4.9、膜状の鉄の酸化沈積物を含む、調査時の湿りやや半乾、境界波状漸変
第3層	35~65	腐植を欠く黃灰色(7.5Y5/2)のCL、均質連結状で細小孔に富む、ち密度1.5で疎、pH(H ₂ O)4.8、管状の鉄の酸化沈積物を含む、調査時の湿り湿、境界波状漸変
第4層	65以下	腐植を欠く黃灰色(7.5Y5/1)のL、均質連結状で細小孔を含む、ち密度1.3で疎、管状の鉄の酸化沈積物を含む、弱グライを呈す。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土						
1	0~20	4.6	0.5	49.1	29.6	20.8	CL	85.0	2.46	2.45	0.24	1.0
2	20~35	4.0	0.4	68.3	19.1	12.2	SL	100.5	2.54	—	—	—
3	35~65	5.0	1.4	43.9	33.4	21.3	CL	91.6	2.58	—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y ₁	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数 mg/100g	有効態磷酸 mg/100g
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O			
1	4.2	5.3	4.4	1.25	23.7	14.8	3.1	1.2	62.5	664	15.1
2	—	4.9	3.9	11.25	17.0	7.6	2.5	0.4	44.7	910	2.9
3	—	4.8	3.8	13.00	21.7	9.7	3.9	0.4	44.7	951	1.3

A-2 他の土壤統との関係

本土壤統に隣接または類似する統としては住吉統、瑞治統、女満別川統等があるが、住吉統は水田土壤であり、瑞治統は水面土壤でかつ母材は低位泥炭であり、女満別川統とは腐植層序が異なるのでそれぞれ本統と区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積

B 地形

網走川の低平地及び、網走川に注ぐ小川の流域。

C 気候

一般に冷涼で、オホーツク海の気圧配置により夏季しばしば低温に見舞われて冷害を受ける。年降水量800mm前後で少なく、春季強風が吹く。

D 植生及び利用状況

大部分耕地に利用され、莢類、ピート、そ菜等が栽培され、一部は水稻が作付けられている。

記載責任者 高尾欽彌（北海道立中央農業試験場）

昭和41年3月31日

女満別川統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

本統は堆積様式が水積のため一定の断面様式を示さないが、代表地点とした処の断面をみると次の如くである。

第1層は厚さ20cm内外、腐植含量は12%、土性はLiCである。色は2.5Y、彩度2、明度2である。礫なく、ち密度1.2～1.6で粗。湿めり半干。pH(H₂O)5.6前後。下層への境界は波状明瞭である。

第2層は厚さ23cm内外、腐植含量は14%、土性はCLである。色はNで、明度2である。礫なく、均質連結状で、ち密度2.2内外で中、湿めり湿。pH(H₂O)5.7前後。下層への境界は波状明瞭である。

第3層は厚さ12cm内外、腐植含量は6.9%、土性はSiCLである。色は2.5Y、彩度2、明度4である。礫なく均質連結状で、ち密度2.2で中、湿めり湿である。pH(H₂O)5.9前後。下層への境界は不規則明瞭である。

第4層は5.5cm内外以下、腐植含量は2%以下、土性SiCLである。礫なく、均質連結状で、ち密度2.4で中、湿めり湿で、糸状、糸根状の酸化沈積物を含む。

代表的断面形態 (所在地)網走郡女満別町字大東 試抗No.99

第1層	0～20cm	腐植に頗る富む、黒褐(2.5Y 2/2)のLiC、礫なく、ち密度1.2で疎、pH(H ₂ O)5.6前後、調査時の湿めり半干、本層は火山灰層とみられ、下部に未風化な薄層が存在している。境界波状明瞭
第2層	20～43cm	腐植に頗る富む、黒(N-2/0)のCL、礫なく、ち密度2.2で中、均質連結状で、調査時の湿めり湿、pH(H ₂ O)5.7前後、下層への境界は波状明瞭
第3層	43～55cm	腐植に富む、黄褐灰(2.5Y 4/2)のSiCL、礫なく、ち密度2.2で中、単粒状で、調査時の湿めり湿、pH(H ₂ O)5.9前後、下層への境界は不規則明瞭
第4層	5.5cm～	腐植を欠く、黄灰(7.5Y 4/1)のSiCL、礫なく、ち密度2.4で中、均質連結状で、調査時の湿めり湿、糸状、糸根状の酸化沈積物を含む、pH(H ₂ O)5.4前後

代表的断面の分析成績

層位	深さ cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容積重g	全炭素 %	全窒素 %	炭素率
			粗砂	細砂	シルト	粘土					
1	0～20	5.5	7.9	32.7	32.8	26.5	LiC	51.3	7.83	0.57	14
2	～43	6.5	11.0	29.9	36.6	22.4	CL	67.5	8.84	0.67	13
3	～55	6.0	1.0	31.9	51.1	15.9	SiCL	60.6	4.25	0.37	11
4	5.5～	3.3	0.6	29.4	47.0	23.0	CiCL	—	—	—	—

層位	腐植 %	pH		置換酸度 Y ₁	置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数 (mg/100 g)
		H ₂ O	KCl			CaO	MgO	K ₂ O		
1	12.8	5.6	4.8	0.8	30.7	14.0	2.8	2.4	48.5	1,262
2	14.3	5.7	4.9	0.5	32.1	18.6	3.4	1.7	58.0	1,519
3	6.9	5.9	4.9	0.5	23.3	11.6	2.4	2.5	49.8	1,384
4	—	5.4	4.3	1.8	23.3	5.2	2.2	1.4	22.4	611
										2.1

A-2 他の土壤統の関係

本統に隣接する統としては大成統、昭和統、巴沢統、中央統があるが、本統の堆積様式は水積（河成堆積）で、他の統と異なるため区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積（河成堆積）

B 地形

標高20m内外の平地

C 気候

気候は温暖であるが、オホーツク海の気圧配置によりしばしば夏季冷涼に終始することがあり、冷害をうける。降水量は800mm前後で少なく春季強風が多い。

D 植生及び利用状況

大部分は耕地化されているが、一部の排水不良地は放牧地として利用されている。

E 農業上の留意事項

大部分は排水不良であるので、排水の完備が望まれる。尚過湿な処は泥炭を介在しているので、かかる処は排水と共に客土も必要である。

F 分布

網走郡女満別町

調査及び記載責任者 野村 賴（北海道立中央農業試験場）

昭和40年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区の一覧

土壤区分	簡略分級式
女満別川 - 1	IIIw IItf
" - 2	IVw IItnf

② 土壤区別説明

女満別川 - 1

示性分級式(畳)

土壤生産力可能等級	表有表耕 効土 土の層 の層 の厚 さ	土 耘土 の風 の乾 の粘 土着の 含	自 然 然 然 さき 量易	養 保固土 の性 肥定塩 基の灰土 状 含	障 置 換 の性 石苦加磷 里酸要 害の質 有害 無性	災 有微酸 害理 害的 害の危 険度	傾 増地 冠すべ りの危 険度	侵 自傾人 斜為 然の傾 方傾 斜向斜 度性性	耐 耐水 蝕 蝕 蝕
t d g p	w	f	n	i	a	s	e		
III III I 3 2 1 III 2 1 3 II 1 2 2 I 1 1 1 1 1 1 I 1 1 I 1 1 I 1 1 I 1 -- I 1 --									
簡略分級式 IIIw II tf									

A 土壤区の特徴

この土壤区は女満別川統に属する。表土の厚さは 1.7 cm 内外で中庸。有効土層は 1 m 以上で深い。下層の排水は稍不良で過湿のおそれが多い。尚下層の土層中に火山灰を介在し、また土層の乱れが多い。

保肥力大、固定力小、土層の塩基状態中で、自然肥沃度は中庸である。養肥分として特に不足せる成分はない。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

土地改良（排水及び客土）の終了した処は漸次耕地されているが、排水不良地がまだ可成り残つてゐる。

C 地力保全上の問題点

土地改良（排水、客土）の早急な完成が望まれる。

D 分布

網走郡女満別町

記載責任者 野村 琥（北海道立中央農業試験場）

昭和 40 年 3 月 31 日

女満別川 - 2

示性分級式(畳)

土壤生産力可能等級	表有表耕 効土 土の層 の層 の厚 さ	土 耘土 の風 の乾 の粘 土着の 含	自 然 然 然 さき 量易	養 保固土 の性 肥定塩 基の灰土 状 含	障 置 換 の性 石苦加磷 里酸要 害の質 有害 無性	災 有微酸 害理 害的 害の危 険度	傾 増地 冠すべ りの危 険度	侵 自傾人 斜為 然の傾 方傾 斜向斜 度性性	耐 耐水 蝕 蝕 蝕
t d g p	w	f	n	i	a	s	e		
IV III I 2 1 1 IV 2 1 3 II 1 2 2 II 2 2 1 1 1 2 I 1 1 I 1 1 I 1 1 I 1 -- I 1 1 1									
簡略分級式 IVw II tfn									

A 土壤区の特徴

この土壤区は女満別川統に属する。本区は下層に泥炭層が存在するため本来ならば土壌統としなければならないが、面積狭少であるため、独立した土壌統として区分しなかつた。表土の厚さは16cm内外で中庸。30cm内外より泥炭を含み、52cm内外以下は泥炭層となり、分解は稍良好である。過湿のおそれがある。保肥力大、固定力小、土層の塩基状態中で自然肥沃度は中庸である。特殊の障害性はない。

B 植生及び利用状況

本土壤区は前区同様土地改良（排水、客土）の終了した処より耕地化されつつあるが、まだ過湿地で未耕地の処も多い。

C 地力保全上の問題点

土地改良（排水、客土）の完成が先決であろう。

D 分布

網走郡女満別町

記載責任者 野村 琢（北海道立中央農業試験場）

昭和40年3月31日

③ 保全対策地区及び説明

1) 保全対策地区の説明

土壌断面の特徴及び対策等を考慮して次の保全対策地区を設定した。

水田

保全対策地区名	該当土壤区	面積(㏊)	主な特徴	重要な保全対策
住吉保全対策地区	住吉ー住吉 本郷ー本郷	132.7	腐植が少ない 作土層が浅い	有機物施用 深耕
瑞治保全対策地区	瑞治ー1 " - 2 " - 3	791.0	排水不良 減水深が大きい 鉱物質が少ない 初期生育が悪い	排水 } 容土 健苗育成、施肥合理化

畑

保全対策地区名	該当土壤区	面積(㏊)	主な特徴	重要な保全対策
昭和保全対策地区	高間ー高間 昭和-1 " - 2 " - 3 " - 4 中央-1 " - 2 " - 3 " - 4	4,504	風水蝕を受ける 腐植が少ない 表土が浅い 塩基、微量元素がやや少ない	風水蝕の防止 有機物の施用 深耕 施肥合理化
大成保全対策地区	豊里-1 " - 2	1,062	排水不良 下層堅密	排水 心土破碎

保全対策地区	該当土壤区	面積(ka)	主な特徴	重要な保全対策
大成保全対策地区	大成一大成 朝日—朝日		下層土の磷酸固定力や強 微量元素の欠乏	施肥合理化
巴沢保全対策地区	巴沢—1 " —2 豊里西—豊里西	501	傾斜地で水蝕が発生する 巨大礫が地表から出現するところあり	水蝕の防止 除礫
女満別川保全対策地区	女満別川—2 " —2 住吉西—住吉西	353	排水不良 酸性を呈する 下層の磷酸固定力やや強	排水 酸性矯正 施肥合理化

2) 保全対策地区別説明

水田

<住吉保全対策地区>

(1) 分布状況

都市町村名	水田面積(ka)	備考(該当土壤区)
網走郡女満別市	132.7	住吉—住吉、本郷—本郷

(2) 保全対策地区の特徴と地方保全上の問題点

① 特徴と問題点

本郷区は下層は泥炭層になつてゐるが、表層は両土壤区とも網走川の水積物の風化物からなつてゐる。この地帯としてはやや良好な土壤であるが腐植含量が極く少なく、作土層も比較的浅い。

この地帯は稻作限界地点に位し、初夏、盛夏にしばしば低温に見舞われ、初期生育の遅延或は減数分裂期に障害を受け、更に秋霜が早く襲来するなど気象的災害が大きい。

② 営農の方向、その他

安全確収と経営経済の安定が特に必要なので、水稻単作のみでなく、そ葉等の導入或は有畜化の進歩が考慮されるべきであろう。

③ 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等	備考
1. 有機物施用	住吉—住吉 本郷—本郷 132.7ka	堆肥の施用 素わらの施用	素わらは秋撒布もしくは秋込みとし10a当たり300~400kg以下とする	
2. 深耕	同上	有機物を施用しながら漸次深耕する	耕深は18~20cmになるよう逐次深めて行くことが望ましい。	

② その他

気象的災害を受ける可能性強い年はこれを出来るだけ回避し、あるいは軽減するため、品種の選択、健苗の育成、初期生育の促進化を図る施肥の改善、灌漑水の水深調節等特段の努力と技術の向上が必要であろう。区画拡大実施の場合は地形おおむね平坦で作土、下層土の性状の異が小さいから表土処理の必要性は少ないと考えられる。

<瑞治保全対策地区>

(1) 分布状況

都市町村名	面積(ka)	備考	(該当土壤区)
網走郡女満別町	791.0		瑞治-1、2、3

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本地区の土壤は地表下20cm以下はヨシ、スゲを主材とする低位泥炭から構成され、作土部分は薄層の火山灰と泥炭分解物の混合物から成るもの、これに若干の客入土が混和したものとがあるが、その性状は大同小異で鉱物成分に不足がちである。

一般に排水不良を呈し、暗渠排水が実施されていて、その効果は明かであるが、一部は暗渠排水が不完全であり、また地形的な影響により暗渠の効果が不充分なところが存在する。網走湖に近いところは湖水の影響を受けて強湿田となつていている。下層の泥炭は比較的未分解であり、盛夏の頃還元の強化によつて根腐れを起すおそれがあると想定される。

暗渠排水の効果が高まるにつれて漏水が増加し、初夏の低温と相まって初期生育の不良となり、盛夏から潜窒素の有効化が高まつて出来遅れとなることが多く、また夏季の低温、秋期の早霜等気象的災害も受け易い。

② 営農の方向、その他

住吉保全対策地区と同様安全確収が特に重要であろうが、経営経済の安定を得るために水稻単作に頼らず他部門の導入も考慮すべきであろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び 対象面積	実施方法	対策資料及び機械器具の 種類、型式、数量	備考
1 排水	瑞穂-1 〃-2 〃-3 791ka	暗渠排水の完全実施 台地との境界で滲透 水の影響あるところ は捕水明渠の実施	工事費の助成	
2. 客土		粘土含量の比較的高い土壤を客入、漸次旧作土、心土と混合して行く	工事費の助成	
3. 施肥合理化		健苗の育成(苗床技術の高揚)灌漑水温を高める	指導の徹底 熔成肥料、珪カルの施用を考慮	

対策の種類 対象地及び 対象面積	実施方法	作業実行及び機械器具の 種類、型式、数量	備考
	磷酸、カリ、苦土の 増施 窒素質肥料は表層施 肥重点（初期生育の 促進）		

② その他

住吉保全対策地区と同様以上に気象的災害を受け易いので、品種の選択、灌漑水の水深調節等災害の回避、在地のための技術向上が更に必要であろう。区画拡大実施の場合は大型機械支持力が弱く、また切土、盛土による出来むらが問題であり、特に切土によつて下層の未分解泥炭層が露出した場合は施肥の増量、窒素の追肥等を行なつても正当な収量を得ることが出来るかは疑問であろう。

<昭和保全対策地区>

(1) 分布状況

都市町村名	畝面積(㏊)	備考(該当土壤区)
網走郡女満別町	4,504	高間一高間、昭和一1、2、3、4 中央一1、2、3、4

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

表層は薄く火山灰が被覆し、その下は凝灰質（浮石）または軽石流風化物からなつてゐるので土壤は板めて粗しようであり、透水性良好な乾燥地である。このため晩春から初夏にかけての乾燥期に襲来する季節風によつて表土が飛散し、播種期、発芽期に甚しい被害をしばしば受ける。緩傾斜～傾斜地においては春季土壤融凍の際、降雨時には水蝕が発生する。

表土は風水蝕によつて薄くなり、作土に心土がかなり混入しおり、腐植含量が少ない。心土は磷酸固定力がやや強く、有効態磷酸含量が少ない。

土壤は養肥分が比較流亡しやすいと考えられる。一部に銅欠乏が見られまた硼素欠乏のおそれもある。

② 営農の方向、その他

豆類、麦類、ビート、馬鈴薯を主作物とした穀蔵経営が一般に採られているが一部には乳牛が導入されている。

本地区の土壤は風水蝕と有機物の補給不足により地方が低下の方向にあり、近年は微量要素欠乏も発現しつつある。今後機械化の進行に伴なつて有機物の施用は年々減少するようと考えられるが、有機物の施用は本土壤の地力増強上不可欠の対策であるから家畜を導入した混同経営に進むか、機械化で穀蔵経営を行なう場合は綠肥作物の導入を特に考慮すべきであろう。

③ 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び 対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の 種類、型式、数量等	備考
1. 風水蝕 防止	4,504ha	耕地防風林の完備 等高線栽培、緑作帯 の設置、牧草の導入	指導の徹底	1、2、3は何れも関連 しているから総合的に推 進する必要がある
2. 有機物 施用		堆肥、緑肥の施用	混同経営の推進 機械化の場合は緑作作物 の導入	
3. 表土が 浅い		有機物を施用しなが ら漸次深耕	トラクターの導入、緑肥 作物の作付	
4. 施肥合 理化		磷酸、苦土、カリの 増施、ビートには硼 素入り肥料の使用 麦類に銅欠乏の発生 するところは銅剤の 施用 深耕の場合は有機物 施肥の施用	指導の徹底 磷酸肥料 深耕の場合は有機物 施肥の施用	

< 大成保全対策地区 >

(1) 分布状況

都市町村名	畠面積(ha)	備考(該当土壤区)
網走郡女満別町	1,062	豊里一、2 大成一大成 朝日一朝日

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本対策地区は排水やや不良で、腐植層の厚いのが特徴である。地形的にやや凹地になつているところは下層が堅密となつている。

乾燥には問題ないが、降雨の多い時は排水不良を呈する。心土は磷酸固定力が強く有効態磷酸が少ない。一部には苦土欠乏、銅欠乏等が発生している。

② 営農の方向、その他

蕎類、ビート等を主作物とした穀蔵経営が行なわれており、一部は乳牛を導入した混同経営農家もある。この地帯とし生産力は比較的あるが数年に一度は気象的災害を受けるため経営経済は必ずしも安定とは云い難い。機械化の推進によつて生ずる剩余労力を更に生産部門に振り向けて、大家畜の導入或は耕作面積の増大を図る等ち密な計画による経営の拡大が必要であろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び 対象面積	実施方法	対策資材及び機械器具の 種類、型式、数量等	備考
1. 排水	豊里ー1 ー2 大成ー大成 朝日ー朝日 1,062ha	排水不良を呈すると ころは暗渠排水の実施	工事費の助成	暗渠排水は湿性の程度においてその規模を考慮する
2. 心土破 碎		堅密層が浅く出現するところが処々に分布するので、かかるところはパンブレーカーにより心土破碎を実施	パンブレーカー 工事費の助成	
3. 施肥合 理化		深耕の際は磷酸質肥料を増施一般に苦土、加里を増施する ビートには硼素入り肥料を施用 麦類に銅欠乏の発生するところは硫酸銅を施用する	培成磷肥 指導の徹底	

<巴沢保全対策地区>

(1) 分布状況

都市町村名	畠面積(ha)	備考(該当土壤区)
網走郡女満別町	501	巴沢ー1、2、 豊里西ー豊里西

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本地区は緩傾斜～傾斜地帯で水蝕を強く受けている。一部は地表から大巨礫が出現し、耕起、碎土の障害となつてているところがあり、心土は磷酸固定力がやや強く、磷酸に不足している。傾斜地上部は水蝕により瘠薄化し易い。

② 営農の方向、その他

波状性傾斜地のため交通事情が一般に悪く、一部乳牛が導入されているが、このことが経営発展の一つの支障となつてている。土壤的にはテラスを造成し、緑作帯を設置し、また牧草畠の増大が必要で、それがためには有畜経営の推進と云うことになろう。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び 対象面積	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の 種類、型式、数量等	備 考
1. 水蝕防 止	巴沢—1 " —2 豊里西— 豊里西 501ha	テラスの完備 緑作帯の設置 水蝕の特に甚しいと ころは草地化する	工事費の助成 指導	
2. 除 磨	豊里西— 豊里西 261ha	地表に大巨礫の出現 するところは除礫		
3. 施肥合 理化	巴沢—1 " —2 豊里西— 豊里西 501ha	傾斜地上部は増肥す る 緑肥作物の導入 深耕の際は磷酸、加 里の増施	指導 牧草 培成施肥	

<女満別川保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	畠面積(ha)	備 考 (該当土壤区)
網走郡女満別町	353	女満別川—1、2 住吉西—住吉西

(2) 保全対策地区の地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

主として女満別川の流域に分布し、河川の水位の影響を受けて排水不良を呈し、一部は強度に排水不良を呈しているところもある。心土の磷酸固定力がやや強く、やや酸性を呈する。

② 営農の方向、その他

経営、混同経営が行なわれている。地理的条件、土地条件からみて有畜化を更に推進することが望ましい。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び 対象面積	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の 種類、型式、数量	備 考
1. 排 水	女満別—1 " —2 住吉西— 住吉西 353ha	暗渠排水 一部、河川改修	工事費の助成	
2. 酸性矯 正	同 上	炭カルの施用	10a当たり 300~500kg	
施肥合理化	女満別川— 1、2 300ha	磷酸の増施、深耕時 は特に増施	培成施肥	

女 满 別 町

頁	行	正	誤
4	上から 7	III 1 II t r f	III 1 II r f
8	上から 7 (表)	塩基置換容量 me/100g	塩基置換容量 ml/100g
"	"	置換性塩基 me/100g	置換性塩基 ml/100g
10	下から 16 (表)	塩基置換容量 me/100g	塩基置換容量 ml/100g
"	"	置換性塩基 me/100g	置換性塩基 ml/100g
"	下から 4	気候一般に	気候一般は
11	上から 13	III 1 II t r f n	III 1 t II t f n
"	下から 9	III 1 II t r f n	III 1 II r f n
12	下から 8	III 1 II t r f	III 1 II r f
13	表	災害性	災性
15	"	塩基置換容量 me/100g	塩基置換容量 ml/100g
"	"	置換性塩基 me/100g	置換性塩基 ml/100g
19	上から 4	殆んど耕地化され	殆んど耕地され
21	上から 8	本統に隣	本統は隣
23	下から 20	非固結水成岩	非固結水成炭
32	表	災害性	災性
33	表	II t f n s e	III t f n s e
34	上から 17	境界平坦	境界不平坦
36	表	耐風蝕性	耐風蝕度
37	上から 19	～頗るとむか	～頗るか
39	下から 4	均質連結状	均資連結状
"	下から 1	"	"
40	下から 11	水田土壤	水面土壤
41	下から 4	暗渠排水	排渠排水
47	上から 20	潜在窒素の	潜窒素の
"	表	対策資材	対策資料
50	"	硫酸銅	流酸銅